

HP OpenVMS Integrity

アップデート・キット VMS84I_UPDATE-V0600 リリース・ノート

2012年1月

本書では、OpenVMS Integrity V8.4 に対するアップデートキットである VMS84I_UPDATE-V0600 の概要、インストール方法、および本キットにより修正される問題点について説明しています。

日本ヒューレット・パカード株式会社

© 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パッカーは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

日本ヒューレット・パッカーは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

Confidential computer software. Valid license from HP and/or its subsidiaries required for possession, use, or copying.

Consistent with FAR 12.211 and 12.212, Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items are licensed to the U.S. Government under vendor's standard commercial license.

Neither HP nor any of its subsidiaries shall be liable for technical or editorial errors or omissions contained herein. The information in this document is provided "as is" without warranty of any kind and is subject to change without notice. The warranties for HP products are set forth in the express limited warranty statements accompanying such products. Nothing herein should be construed as constituting an additional warranty.

DISCLAIMER OF WARRANTY AND LIMITATION OF LIABILITY

THIS PATCH IS PROVIDED AS IS, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND. ALL EXPRESS OR IMPLIED CONDITIONS, REPRESENTATIONS AND WARRANTIES, INCLUDING ANY IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT, ARE HEREBY EXCLUDED TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. IN NO EVENT WILL HP BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE OR PROFIT, OR FOR SPECIAL, INDIRECT, CONSEQUENTIAL, INCIDENTAL OR PUNITIVE DAMAGES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, WITH RESPECT TO ANY PATCH MADE AVAILABLE HERE OR TO THE USE OF SUCH PATCH.

原典：本書は『HP OpenVMS Update Kit for Integrity Servers VMS84I_UPDATE-V0600 Release Notes』の情報を元に作成しています。

目次

まえがき	viii
1 キットの概要	
1.1 本アップデートキットの概要	1-1
1.2 キット名	1-1
1.3 キットの説明	1-1
1.3.1 インストールの必要性	1-1
1.3.2 リブートの必要性	1-2
1.3.3 このキットを適用する OpenVMS のバージョン	1-2
1.3.4 新機能あるいは新しいハードウェアのサポート	1-2
1.4 本キットにより旧版となるキット	1-3
1.5 依存するキット	1-3
2 インストールに関する注意事項	
2.1 テストイメージおよびデバッグイメージのバックアップ	2-1
2.2 圧縮ファイル	2-1
2.3 インストールのためのコマンド	2-1
2.4 インストール時のプロンプト表示の制御	2-2
2.5 その他の注意事項	2-3
3 VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題	
3.1 新機能	3-1
3.1.1 rx2800 i2 サーバーおよびその他の PCIe 搭載ラックマウント Itanium サーバーでサポートされる新しいハードウェア	3-1
3.1.2 このキットでサポートする新しい機能	3-2
3.2 このキットで解決される問題	3-2
3.2.1 SYSSHUBDRIVER で INVEXCEPTN によりシステムクラッシュが発生する問題	3-2
3.2.2 USB 大容量ストレージデバイスのマウントが失敗する問題	3-2
3.2.3 BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 および rx2800 i2 サーバーで USB シリアル・マルチプレクサ・デバイスの構成が失敗する問題	3-3
3.2.4 MSASUTIL がキャッシュバッテリーの低下に関する正しい状態メッセージを表示しない問題	3-4
3.2.5 MSASUTIL を使用して SAS コントローラ・ファームウェアを更新できない問題	3-4
3.2.6 無効なスペアディスクが指定された場合に LUN が作成される問題	3-5

3.2.7	MSASUTIL SHOW CONTROLLER/FULL コマンドがエラーメッセージを表示する問題	3-5
3.2.8	MSASUTIL が RAID 50 あるいは RAID 60 LUN の作成に失敗する問題	3-6
3.2.9	MSASUTIL が 1 TB より大きな LUN の作成に失敗する問題	3-6
3.2.10	CLUSTER_CONFIG[_LAN].COM の実行時に警告メッセージが表示される問題	3-7
3.2.11	IP インタフェースに対して正しくないロードクラスが表示される問題	3-7
3.2.12	WEBES が PEDriver イベント・メッセージを変換できない問題	3-8
3.2.13	SHOW PORT/VC コマンドが間違ったハードウェア・タイプを表示する問題	3-8
3.2.14	過度のバケット・ロスが発生すると PEDriver が INVEXCEPTN でクラッシュする問題	3-9
3.2.15	PEDriver エラーログのための新しいイベント・タイプの追加	3-9
3.2.16	大きなロックツリーを作成すると LOCKMGRERR クラッシュが発生する問題	3-10
3.2.17	デッドロックを検出するとアプリケーションがハングする問題	3-10
3.2.18	Alpha システムで BOOT_OPTIONS.COM を実行したときに不適切なメッセージが表示される問題	3-11
3.2.19	ブートオプションの追加時に入力した応答を OpenVMS インストール・プロシージャが無視する問題	3-11
3.2.20	BOOT_OPTIONS.COM が有効なブート・オプションの追加に失敗する問題	3-12
3.2.21	BOOT_OPTIONS.COM が特権のないアカウントによるブート・オプションの追加を認めてしまう問題	3-13
3.2.22	BOOT_OPTIONS.COM で BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 あるいは rx2800 i2 の特定のデバイスにブート・オプションを追加するとブートが失敗する問題	3-13
3.2.23	SYSINIT が報告するエラー状態の修正	3-14
3.2.24	DECnet が無効な場合に INVEXCEPTN バグチェックでシステム・クラッシュが発生する問題	3-14
3.2.25	OpenVMS CRTL の fcntl() バイトレンジ・ロック機能を使用しているアプリケーションが動作しなくなる問題	3-15
3.2.26	SHADDETINCON あるいは INVEXCEPTN バグチェックでシステムがクラッシュする問題	3-15
3.2.27	CPUSPINWAIT バグチェックでシステムがクラッシュする問題	3-16
3.2.28	シャドウ書き込みビットマップのリセット時にシステムあるいはクラスタのハングが発生する問題	3-16
3.2.29	シャドウドライバが冗長なマウント確認メッセージを表示する問題	3-17
3.2.30	INVEXCEPTN バグチェックでシステムがクラッシュする問題	3-17
3.2.31	索引付きリモートファイルを作成した後に FORTRAN プログラムが処理に失敗する問題	3-18
3.2.32	10 Gb (BCM57711) ポートから他のポートへの LAN フェイルオーバに 3 秒以上かかる問題	3-18
3.2.33	LAN カード A6825 の Copper モジュールで LAN リンクフラップが発生する問題	3-19
3.2.34	BACKUP がバックアップ先にディレクトリ構造を保管しない問題	3-19
3.2.35	RWMPB 状態でプロセスが動作不能になる問題	3-20
3.2.36	COPY/SYMLINK がターゲット・ファイルをコピーする問題	3-20
3.2.37	ラージメモリサイズと RAD が有効な Integrity システムで予約メモリを使用した場合にブートが失敗する問題	3-21
3.2.38	プロセスのアドレススペースを削除する際に SECREFNEG バグチェックが発生する問題	3-22

3.2.39	COPY/OVERLAY で出力ファイルのサイズが増加する問題	3-23
3.2.40	再帰的な DIRECTORY コマンドで "SYSTEM-W-BADFILEVER" エラーメッセージが発生する問題	3-23
3.2.41	BACKUP がシンボリックリンク・ファイルを探さない問題	3-24
3.2.42	AES 暗号化セーブセットの分析が失敗する問題	3-24
3.2.43	特殊文字のドット (.) を含むディレクトリ・ファイルに対する DIRECTORY コマンドの実行が失敗する問題	3-25
3.2.44	ACCOUNTING /REJECTED コマンドがエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題	3-26
3.2.45	SYSSNDJBC システムサービスを使用して作成されたアカウントイング・レコードを読み取る際に ACCOUNTING ユーティリティが OTS-F-OUTCONERR エラーで処理に失敗する問題	3-26
3.2.46	"RMS-F-SYN" エラーで SUBMIT コマンドが失敗する問題	3-27
3.2.47	DELETE コマンドが一連のファイルを削除するのに時間がかかる問題	3-28
3.2.48	ANALYZE/DISK_STRUCTURE コマンドで間違ったファイル名が生成される問題	3-28
3.2.49	ディスク数が 744 を超えると MONITOR がデータ収集を中断する問題	3-29
3.2.50	BACKUP /PROGRESS_REPORT で正しくない進捗情報が表示される問題	3-29
3.2.51	DIRECTORY/GRAND_TOTAL コマンドが報告するファイルサイズの合計値が正しくない問題	3-30
3.2.52	BACKUP 保管操作が何もエラーメッセージを表示せずに中断する問題	3-31
3.2.53	BACKUP が増分バックアップの復元操作で存在しないディレクトリを削除しようとする問題	3-31
3.2.54	ACCOUNTING/BRIEF で 81 文字の ACCOUNTING レコードを表示する際に発生する問題	3-32
3.2.55	RU ジャーナリングが有効になっている RMS ファイルをオープンしようとするとプロセスが動作不能になる問題	3-33
3.2.56	SDA が 7FFFFFF を超える LOCKID を表示しない問題	3-33
3.2.57	FSFILE_ATTRIBUTES レキシカル関数が FALSE を返す問題	3-34
3.2.58	複数の MTAACP 要求が同時に実行されるとプロセスが動作不能になる問題	3-35
3.2.59	SHOW ERROR/FULL コマンドが "%SYSTEM-F-VASFULL" エラーメッセージで終了する問題	3-36
3.2.60	CONVERT/FDL コマンドがエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題	3-37
3.2.61	LIB\$FIND_CVT_PATH ルーチンにおけるアラインメント・フォルト	3-37
3.2.62	TYPE/TAIL=n がエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題	3-38
3.2.63	OpenVMS V8.4 の DELETE コマンドが以前のバージョンよりも CPU 時間を消費する問題	3-39
3.2.64	未定義のレコード形式のファイルに対して DIFFERENCES が差分を正しく報告しない問題	3-39
3.2.65	SCH_HARD_OFFFLD または PAGED_LAL_SIZE パラメータが意図せずデフォルト値に設定される問題	3-40
3.2.66	LBR\$OPEN を非ライブラリ・ファイル形式で起動するとチャンネルがオープンしたままになる問題	3-42
3.2.67	XFC が 4 MB を超える GH 領域をサポートしない問題	3-42
3.2.68	SET PROCESS/AFFINITY コマンドが %CLI-W-CONFLICT 警告メッセージを表示する問題	3-43

3.2.69	ターゲット・ディスクが ODS-2 の場合に CREATE/SYMLINK コマンドが何もエラーメッセージを表示しない問題	3-43
3.2.70	EDIT/TPU コマンドが BADIRECTORY エラーでファイル・オープンに失敗する問題	3-44
3.2.71	ANALYZE/DISK_STRUCTURE/REPAIR コマンドがエラーメッセージを表示して失敗する問題	3-45
3.2.72	デバグが複雑なデータ構造体をチェックできない問題	3-46
3.2.73	デバグがレコード内で同じオフセットを持つすべてのコンポーネントを表示する問題	3-48
3.2.74	SYSSMKDRIVER と AUDIT サーバー間の同期が取れないために発生するシステムクラッシュ	3-49
3.2.75	IPC トレースバッファ・オーバーフローによる INCONSTATE クラッシュ	3-49
3.2.76	SYSSICC_TRANSCEIVEW システムサービスでアプリケーションが動作しなくなる問題	3-50
3.2.77	リンク状態がダウンの場合に LAN フェイルオーバが機能しない問題	3-50
3.2.78	Unicode 文字を含むディレクトリにアクセスできない問題	3-51
3.2.79	汎用の USB ドライバ (UG) が AST を未処理のまま残す問題	3-52
3.2.80	Fibre Channel システムディスクに対して重複するブートパスが表示される問題	3-52
3.2.81	マルチスレッド・アプリケーションが断続的に動作しなくなる問題	3-53
3.2.82	EFI プロンプトでブート可能な物理デバイスが表示されない問題	3-53
3.2.83	rx2800 i2 サーバーでコンソールが POLLED モードで動作する問題	3-54
3.2.84	RTA ターミナルデバイスで制御文字あるいはキーボード割り込みが受け入れられない問題	3-55
3.2.85	AUTHORIZE ユーティリティの複数の問題	3-55
3.2.86	C ランタイム・ライブラリ関数 LOG10 が HUGE_VAL の値を返す問題	3-57
3.2.87	Emulex FC HBA の不良で I/O 処理時にシステムクラッシュが発生する問題	3-57
3.2.88	VMS_DUMP_DEV EFI パラメータに無効なエントリが設定されているとシステム・シャットダウンやリブートに時間がかかる問題	3-58
3.2.89	API 関数 decc\$get_channel() を呼び出す C 言語のアプリケーションやプログラムをコンパイルすると情報メッセージが表示される問題	3-58
3.2.90	32 K を超えるグローバルセクションを作成すると SECTBLFUL エラーメッセージを返す問題	3-59
3.2.91	LANCP ユーティリティで Broadcom 10 Gigabit デバイスに対して Jumbo フレームを設定できない問題	3-60
3.2.92	クラスタへの参加でブート中にシステムがハングする問題	3-60
3.2.93	10 Gigabit の Broadcom デバイスが含まれていると Jumbo フレームで論理 LAN を作成できない問題	3-61
3.2.94	ブート時の PROCgone バグチェックでのシステムクラッシュ	3-62
3.2.95	正しくない負のリテラルの符号拡張	3-62
3.2.96	OpenVMS CRTL の setitimer() API 関数の間違った動作	3-63
3.2.97	C RTL の setenv() API 関数を頻繁に呼び出すとメモリリークを引き起こす問題	3-63
3.2.98	SORT コマンドが中間警告メッセージの状態を表示しない問題	3-64
3.2.99	PRINT USING ルーチンが正しい QUAD 値を出力しない問題	3-64
3.2.100	UETP がメモリの大きなシステムで負荷の計算を間違える問題	3-65
3.2.101	SATA DVD に関するマウント確認メッセージが重複して表示される問題	3-65
3.2.102	プロセスダンプの作成で警告メッセージが出力される問題	3-66
3.2.103	ACME VMS エージェントにおける複数の問題	3-66
3.2.104	ログイン端末名フィールド幅が 7 文字しかない問題	3-67

3.2.105	浮動小数点ソフトウェアアシストを行う際にループになる潜在的な問題	3-67
3.2.106	論理名キャッシュにおける大文字/小文字を区別する論理名の不適切な処理	3-68
3.2.107	LNМ UNLOAD SDA コマンドの実行時にプロセスがクラッシュする問題	3-68
3.2.108	KP サービスを使用するスレッドアプリケーションにおける断続的なシステムクラッシュ	3-69
3.2.109	キャッシュをフラッシュする際に発生する EXESPAL_IMB_PHYS における INVEXCEPTN	3-69
3.2.110	リポート時にシステム時間の入力の実用性をなくすための修正	3-70
3.2.111	ACME_SERVER プロセスが OPA0: コンソールをロックする問題	3-71
3.2.112	監査レコードが DIR/FILE_ID コマンドの結果と異なる問題	3-71
3.2.113	BL860c および BL870c サーバブレードの LOM におけるリンク状態の変更に関する問題	3-72
3.2.114	SHOW PROCESS/CONTINUOUS コマンドの動作が正しくない問題	3-73
3.3	ファームウェア・リリースで解決される問題	3-73
3.3.1	EFI ブートオプション Internal Bootable DVD を使用して rx2800 i2 サーバをブートできない問題	3-73
3.3.2	rx2800 i2 サーバの HP Smart Array P812 コントローラに接続されたテープ・ドライブがハングする問題	3-74
4	既知の問題と制限事項	
5	OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキットについての情報	
6	以前のアップデートキットのドキュメントに対する訂正	
A	本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧	

まえがき

本書の目的

本書では、VMS84I_UPDATE-V0600 のインストール方法と、本キットにより修正される問題点について説明しています。

対象読者

本書は、システム管理者を対象としています。

本書の構成

本書の構成は次のとおりです。

第 1 章	本アップデートキットについて概要を説明しています。
第 2 章	本アップデートキットのインストールに関する注意事項について説明しています。
第 3 章	本アップデートキットにより修正される問題点について説明しています。
第 4 章	本アップデートキットの既知の問題点と制限事項について説明しています。
第 5 章	本アップデートキットに含まれているパッチキットのリリースノートについて説明しています。
第 6 章	以前のバージョンのアップデートキットのドキュメントに対する訂正について説明しています。
付録 A	本アップデートキットのインストールにより修正されるファイルの一覧を示しています。

本書で使用する表記法

本書では、下記の表記法を使用します。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
PF1 x	PF1 x という表記は、PF1 に定義されたキーを押してから、別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。

表記法	意味
<code>Return</code>	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 文中のオプションの引数が省略されている。 • 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 • パラメータや値などの情報をさらに入力できる。
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
()	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
-	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数がある後の行に続くことを示します。
数字	特に明記しない限り、本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数、8 進数、16 進数) は、その旨を明記してあります。

キットの概要

1.1 本アップデートキットの概要

本アップデートキットの概要は以下のとおりです。

対象バージョン:	OpenVMS for Integrity Servers V8.4
キットサイズ:	289334 ブロック
インストレーション・レーティング:	INSTALL_1
リブートの必要性:	必要
インストレーションに関する注意事項:	有
本キットにより旧版となるキット:	VMS84I_UPDATE-V0500
依存する必須キット:	VMS84I_PCSI-V0300 (あるいはそれ以降の PCSI アップデートキット)
オプションの依存キット:	無し

チェックサム:

VMS84I_UPDATE-V0600.ZIPEXE Checksum: 4155343527
HP-I64VMS-VMS84I_UPDATE-V0600--4.PCSI\$COMPRESSED Checksum: 3911924348
VMS84I_UPDATE-V0600.ZIPEXE MD5 Checksum:
600DF4CD7FCD7EE2A7762B23D0747662
HP-I64VMS-VMS84I_UPDATE-V0600--4.PCSI\$COMPRESSED MD5 Checksum:
6ED7E2D97E2A6CBA992F630F4F963E4C

1.2 キット名

本キットのキット名は以下のとおりです。

- VMS84I_UPDATE-V0600

1.3 キットの説明

1.3.1 インストレーションの必要性

インストール・レーティング	説明
INSTALL_1	対象ユーザーは全ユーザーです。すべてのシステムでインストールが必要です。

キットの概要

1.3 キットの説明

現在の CLD 情報に基づいて示されたこのインストール・レーティングは、この修正キットの適用が必要なシステムについて示しています (本書のコピーライト情報のページの Disclaimer of Warranty and Limitation of Liability Statement を参照)。

1.3.2 リブートの必要性

本パッチのインストール時にはリブートが必要になります。

システムが不安定になるのを防ぐために、キットのインストール直後にリブートすることを強くお勧めします。OpenVMS クラスタ環境内に他のノードが存在する場合は、新しいイメージを使用するようにそれらのシステムもリブートする必要があります。クラスタ全体のリブートが不可能あるいは不都合がある場合は、ローリング・リブートの実行を検討してください。

VMS84I_UPDATE-V0600 アップデートキットをインストールする際の前提条件については、第 2.5 節を参照してください。

1.3.3 このキットを適用する OpenVMS のバージョン

本キットは下記の OpenVMS のバージョンに対して適用してください。

- OpenVMS for Integrity Servers V8.4

1.3.4 新機能あるいは新しいハードウェアのサポート

このアップデートキットは以下の機能を提供します。

- HP Smart Array P812 コントローラ (AM312A) のサポート
- Dual-port 10GbE PCIe Ethernet コントローラ (AM225A, AM232A, および AM233A) のサポート

詳細は第 3.1 節を参照してください。

rx2800 i2 サーバーおよび BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 サーバーブレードでサポートされた以下の I/O オプションが、それ以外の Itanium サーバーでもサポートされます。

- PCIe を搭載した古い Itanium ラックサーバーで、HP Smart Array P411 コントローラ (AM311A) をサポートします。
- BL860c サーバーブレードあるいは BL870c サーバーブレードで HP NC532m Dual-port 10 GbE BL-c アダプタ (467799-B21) をサポートします。

1.4 本キットにより旧版となるキット

本キットは、下記のアップデートキットの後継キットです。

- VMS84I_UPDATE-V0500

1.5 依存するキット

本キットあるいは必要なキットをインストールする前に、以下の修正キット (あるいはそれ以降にリリースされた修正キット) をインストールしておく必要があります。

- VMS84I_PCSI-V0300

インストールに関する注意事項

2.1 テストイメージおよびデバッグイメージのバックアップ

OpenVMS エンジニアリングに報告された問題をデバッグする過程で、お客様のシステムにデバッグイメージやテストイメージのインストールをお願いしている場合があります。通常これらのイメージは、OpenVMS の修正パッチプロセスによってリリースされるイメージと同じ生成フラグは付与されません。このため、SYSSCOMMON 領域に存在するデバッグイメージおよびテストイメージは、本キットでインストールされる同じ名前のイメージで置き換えられます。この場合、置き換えられたイメージで提供していた機能は失われることとなります。これらのデバッグイメージあるいはテストイメージを残したい場合は、次のような操作を行ってください。

- 本キットをインストールする前に、保管するテストイメージ/デバッグイメージを SYSSSPECIFIC 領域に移動してください。
- キットのインストール中、SYSSSPECIFIC にあるイメージを削除するかどうか質問されます。ここで、残したいイメージに対しては NO と応答してください。
- インストールが完了した後、システムをリブートする前 (必要な場合) に、SYSSSPECIFIC から SYSSCOMMON へそのイメージを戻してください。

2.2 圧縮ファイル

本キットは自己解凍の ZIPEXE キットとして提供されています。このファイルをインストール可能な PCSI ファイルに展開する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
$ RUN VMS84I_UPDATE-V0600.ZIPEXE
```

2.3 インストールのためのコマンド

本キットのインストールは、SYSTEM アカウントでログインして DCL プロンプトで次のように入力し、POLYCENTER Software Installation ユーティリティを使用し行ってください。

```
PRODUCT INSTALL VMS84I_UPDATE[/SOURCE=location of Kit]
```

インストールに関する注意事項

2.3 インストールのためのコマンド

なお、本キットは/SAVE_RECOVERY_DATAオプションが有効な状態でインストールされます。この修飾子を使用すると、問題が発生した場合にシステムからこのキットを簡単に削除することができます。このオプションを無効にしたい場合は、PRODUCT INSTALLコマンドで/NOSAVE_RECOVERY_DATA修飾子を使用する必要があります。/SAVE_RECOVERY_DATA修飾子の使用は任意ですが、使用することを強くお勧めします。この修飾子を使用すると、問題が発生した場合にシステムからこのキットを簡単に削除することができます。

/SOURCE修飾子には、このキットが含まれている CD あるいはディスク・ディレクトリを指定します。現在のディレクトリにキットが存在する場合にはこの修飾子の指定は必要ありません。

PCSI キットのインストールに関するその他のヘルプ情報は、DCL プロンプトでHELP PRODUCT INSTALLと入力することにより参照できます。

2.4 インストール時のプロンプト表示の制御

本キットのインストール中、ユーザーによる応答が必要ないいくつかの質問が表示されます。質問に対して応答せずにインストールを自動化したい場合は、次のような論理名定義とコマンドを含む DCL コマンドプロシージャを作成する必要があります。

- バックアップに関する質問プロンプトを表示しないようにするには、次のように定義します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$BACKUP TRUE
```

- リポートに関する質問プロンプトを表示しないようにするには、次のように定義します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$REBOOT TRUE
```

- *.*_OLD の名前で置き換えられたファイルを保管しておく場合は、次の論理名を YES と定義してください。置き換えられたファイルの保管が必要ない場合は、次の論理名を NO と定義してください。なお、PRODUCT INSTALL コマンドで/SAVE_RECOVERY_DATA 修飾子を指定した場合 (指定を推奨します)、置き換えられたすべてのファイルは保管されます。この場合、*.*_OLD の保管を指定する必要はありません。

```
$ DEFINE/JOB ARCHIVE_OLD NO
```

- PRODUCT INSTALL コマンドに次の修飾子を追加して、DCL コマンドプロシージャに追加してください。

```
/PROD=HP/BASE=I64VMS/VER=V6.0 [/SOURCE=location of Kit]
```

- 割り当てられた論理名を再定義します。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットをインストールするためのコマンドファイルの例を以下に示します。

```
$ DEFINE/SYS NO_ASK$BACKUP TRUE
$ DEFINE/SYS NO_ASK$REBOOT TRUE
$ DEFINE/JOB ARCHIVE_OLD NO
$!
$ PROD INSTALL VMS84I_UPDATE/PRODUCER=HP/BASE=I64VMS/VER=V6.0
$!
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$BACKUP
$ DEASSIGN/SYS NO_ASK$REBOOT
$!
$ exit
$!
```

2.5 その他の注意事項

VMS84I_UPDATE-V0600 アップデートキットのインストール、あるいはこのアップデートキットに対してPRODUCTコマンドによる何らかの操作を行うためには、ご使用のシステムにVMS84I_PCSI-V0300以降のキットがインストールされている必要があります。/REMOTE修飾子を使用して他のOpenVMSシステムディスクからインストールを行う場合は、ソースシステムディスクに最新のPCSIキットがインストールされている必要があります。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題

3.1 新機能

3.1.1 rx2800 i2 サーバーおよびその他の PCIe 搭載ラックマウント Itanium サーバーでサポートされる新しいハードウェア

- HP Smart Array P812 コントローラ (AM312A) のサポート

HP Smart Array P812 は、HP から初めて提供する 24 ポートのシリアル接続の SCSI (SAS) RAID コントローラです。HP が提供する Smart Array SAS コントローラの中で最も高性能で高容量なコントローラで、HP サーバーに最新のストレージ接続性を提供します。

- Dual-port 10 GbE PCIe Ethernet コントローラ (AM225A, AM232A, および AM233A) のサポート

HP Integrity PCIe 2-port 10 GbE アダプタは、最適なスループットを提供する 8 レーン (x8) の PCI Express (PCIe) 10 Gigabit ネットワークソリューションです。

このアップデートキットでは以下のモデルをサポートします。

- AM225A HP 10GbE-SR PCIe 2-port NC532SFP アダプタ
- AM232A HP 10GbE-LR PCIe 2-port NC532SFP アダプタ
- AM233A HP 10GbE-CR PCIe 2-port NC532SFP アダプタ

注意

SR カードには SR SFP+ モジュールを使用してください。LR カードには LR SFP+ モジュールを使用してください。これらのカードに必要なファームウェアの最低バージョンは以下のとおりです。

- Firmware: 5.2.70
 - EFI: 5.2.53
-

3.1 新機能

3.1.2 このキットでサポートする新しい機能

LBR\$OPEN は排他的に保持されているファイルに対して 2 分間 (あるいはそれ以上) リトライを続行します。

LBR\$OPEN は、同じファイルが別のプロセスによって排他的に保持されている場合に 2 分間 (あるいはそれ以上) リトライを続けます。新しい論理名 LBR\$OPEN_RETRYCNT が導入されています。この論理名は、他のプロセスが排他モードですでにオープンしているライブラリに LBR\$OPEN がアクセスする時間を制御します。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]LBR\$SHR.EXE

3.2 このキットで解決される問題

ここでは、本キットの適用により解決される問題について説明します。問題の回避方法がある場合は、それについても示します。

3.2.1 SYS\$HUBDRIVER で INVEXCEPTN によりシステムクラッシュが発生する問題

問題の説明:

故障した USB DVD ドライブがシステムに接続されている場合に、システムクラッシュが発生する問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$HUBDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

- QXCM1001111743

回避方法:

なし

3.2.2 USB 大容量ストレージデバイスのマウントが失敗する問題

問題の説明

前回接続が切断された際に USB 大容量ストレージデバイスの構成が適切に解除されていないと、マウントに失敗するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$DNDRIVER.EXE
- [SYSLIB]USB\$SDA.EXE
- [SYSEXEXE]EFIS\$BCFG.EXE
- [SYSEXEXE]ERRFMT.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.3 BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 および rx2800 i2 サーバーで USB シリアル・マルチプレクサ・デバイスの構成が失敗する問題

問題の説明:

BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 サーバースレードおよび rx2800 i2 サーバーで USB シリアル・マルチプレクサ・デバイスの構成に失敗するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$UHCIDRIVER.EXE
- [SYSLIB]USB\$SDA.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.4 MSA\$UTIL がキャッシュバッテリーの低下に関する正しい状態メッセージを表示しない問題

問題の説明:

MSA\$UTIL で、SHOW CONTROLLER コマンドは正しいバッテリー状態メッセージを表示しない問題がありました。本キットにより、MSA\$UTIL がキャッシュバッテリーの低下に関する正しい状態メッセージを表示するようになりました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.5 MSA\$UTIL を使用して SAS コントローラ・ファームウェアを更新できない問題

問題の説明:

MSA\$UTIL が、2 MB より大きなファームウェア・イメージ・サイズへの更新をサポートしていないという問題がありました。このアップデートキットにより、MSA\$UTIL は 2 MB より大きなサイズの SAS コントローラ・ファームウェア・イメージを更新することができるようになります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.6 無効なスペアディスクが指定された場合に LUN が作成される問題

問題の説明:

指定したスペアディスクが無効(すなわち 10 桁より大きな番号)であっても MSA\$UTIL ADD UNIT コマンドが正常終了し LUN が作成されるという問題がありました。このアップデートキットにより、無効なスペアディスクが指定された場合に MSA\$UTIL コマンドが LUN を作成しなくなります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.7 MSA\$UTIL SHOW CONTROLLER/FULL コマンドがエラーメッセージを表示する問題

問題の説明:

MSA\$UTIL でデフォルトのコントローラが設定されていない場合、SHOW CONTROLLER/FULL コマンドがエラーメッセージを表示するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.8 MSA\$UTIL が RAID 50 あるいは RAID 60 LUN の作成に失敗する問題

問題の説明:

MSA\$UTIL が RAID 50 あるいは RAID 60 LUN の作成に失敗する問題がありました。

MSA\$UTIL の ADD UNIT コマンドで RAID 50 あるいは RAID 60 LUN を作成しようとする、RAID 5 あるいは RAID 6 (ADG) LUN が作成されるという問題がありました。この際 MSA\$UTIL は作成した論理ボリューム RAID を、RAID 50 あるいは RAID 60 と間違った RAID レベルで表示していました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.9 MSA\$UTIL が 1 TB より大きな LUN の作成に失敗する問題

問題の説明:

論理ユニットのサイズが 1 TB を超える場合、MSA\$UTIL ADD UNIT コマンドが LUN の作成に失敗するという問題がありました。このアップデートキットにより、MSA\$UTIL は 1 TB を超える論理ユニットを作成できるようになります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]MSA\$UTIL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.10 CLUSTER_CONFIG[_LAN].COM の実行時に警告メッセージが表示される問題

問題の説明:

LAN 構成でないクラスタで CLUSTER_CONFIG[_LAN].COM コマンドプロシージャを実行すると、未定義シンボルに関する警告メッセージが表示されるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG.COM
- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG_LAN.COM

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.11 IP インタフェースに対して正しくないロードクラスが表示される問題

問題の説明:

Cluster over IP (IPCI) 環境で IP インタフェースが再起動された場合に、SCACP によって間違ったバス・ロードクラスが表示される問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYSPEDRIVER.EXE
- [SYSSLDR]SYSPEDRIVER_MON.EXE
- [SYSSLDR]SYSPEDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSPEDRIVER_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.12 WEBES が PEDriver イベント・メッセージを変換できない問題

問題の説明:

WEBES が PEDriver イベント・メッセージを変換できないという問題がありました。この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001079619

回避方法:

なし

3.2.13 SHOW PORT/VC コマンドが間違ったハードウェア・タイプを表示する問題

問題の説明:

SDA で SHOW PORT/VC コマンドが間違ったハードウェア・タイプを表示するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.14 過度の packets・ロスが発生すると PEDriver が INVEXCEPTN でクラッシュする問題

問題の説明:

過度の packets・ロスが発生すると次のようなクラッシュダンプ・サマリー情報を表示して PEDriver がクラッシュするという問題がありました。このクラッシュダンプは、チャンネル帯域幅が 1 GB を超える環境で発生していました。

```
Failing PC: FFFFFFFF.81429FD0 TR.RCV_ACK_C+005C0  
Failing PS: 00000000.00000800  
Module: SYS$PEDRIVER  
Offset: 0002EBD0
```

この問題は修正されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001150138

回避方法:

なし

3.2.15 PEDriver エラーログのための新しいイベント・タイプの追加

問題の説明:

ERRLOG.SYS でエントリ・タイプ 100 の下に報告される PEDriver パケットエラー・イベントは、判読しやすいようにエントリ・タイプ 127 に変更されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]ERRORLOG.EXE
- [SYS\$LDR]ERRORLOG.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001079606

回避方法:
なし

3.2.16 大きなロックツリーを作成すると LOCKMGRERR クラッシュが発生する問題

問題の説明:
ロック・マネージャがロック ID のアーキテクチャ上の限界に達すると、LOCKMGRERR バグチェックでシステムがクラッシュするという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]LOCKING.EXE
- [SYSS\$LDR]LOCKING.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001070677

回避方法:
なし

3.2.17 デッドロックを検出するとアプリケーションがハングする問題

問題の説明:
ある一定の条件下で、デッドロック検索が、ロック待ち状態のためのデッドロックの検出および解決に失敗するという問題がありました。これにより、ロックマネージャにデッドロックの検出および解決を依存するようなアプリケーションがハングする場合があります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYS\$CLUSTER.EXE
- [SYSS\$LDR]SYS\$CLUSTER.STB
- [SYSS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001140177

回避方法:
なし

3.2.18 Alpha システムで BOOT_OPTIONS.COM を実行したときに不適切なメッセージが表示される問題

問題の説明:

BOOT_OPTIONS.COM ユーティリティは Integrity サーバシステム上で実行されることを想定していました。Alpha システムで実行すると、以下のような警告メッセージを表示していました。

```
%DCL-W-IVVERB, unrecognized command verb - check validity  
and spelling \SAY\
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSMGR]BOOT_OPTIONS.COM

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001098021

回避方法:
なし

3.2.19 ブートオプションの追加時に入力した応答を OpenVMS インストレーション・プロシージャが無視する問題

問題の説明:

インストレーション・メディアからの OpenVMS のインストレーション中に次のような質問に対して入力した応答が、コマンドプロシージャによってすべて NO として扱われていました。

```
Do you want to create or validate boot options? (Yes/No) [Yes]
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]I64VMS\$PCSI_INSTALL_MIN.COM

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

- [SYSEXE]I64VMS\$PCSI_INSTALL.COM

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001111653

回避方法:

ブート・オプションを作成あるいは有効化する際に、次の質問に対して明示的に Yes と応答するのではなく、Enter キーを押してデフォルト・オプションを選択します。

```
Do you want to create or validate boot options? (Yes/No) [Yes]
```

3.2.20 BOOT_OPTIONS.COM が有効なブート・オプションの追加に失敗する問題

問題の説明:

BOOT_OPTIONS.COM ユーティリティでブート・オプションを追加する際、デバイス名が d あるいは \$ で始まっていない場合は、ブート・オプションの選択の際にデフォルトのオプションを選択すると次のようなエラーメッセージが表示されていました。

```
efi$bcfg: Device <ユーザが入力した文字列> is not found or not local. Status = 3  
efi$bcfg: Unable to execute the Add Option. Status = 3
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSMGR]BOOT_OPTIONS.COM

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001104146

回避方法:

ENTER キーを押してデフォルト・オプションを選択する代わりに、次のように明示的に番号を入力します。

```
Enter the desired position number (1,2,3,,,) of the entry.
```

```
To display the Boot Options list, enter "?" and press Return.
```

```
Position [1]: 1
```

3.2.21 BOOT_OPTIONS.COM が特権のないアカウントによるブート・オプションの追加を認めてしまう問題

問題の説明:

特権のないユーザーによるブート・オプションの追加を BOOT_OPTIONS.COM ユーティリティが認めてしまう問題がありました。しかし、そのようなブート・オプションからのブートは、次のようなエラーメッセージで失敗します。

```
Load of device failed: Not Found
```

本アップデートキットの適用により、特権のないアカウントからブート・オプションを追加すると適切なメッセージが表示されるようになりました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]EFISBCFG.EXE
- [SYSEXE]ERRFMT.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001097546, QXCM1000921798

回避方法:

なし

3.2.22 BOOT_OPTIONS.COM で BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 あるいは rx2800 i2 の特定のデバイスにブート・オプションを追加するとブートが失敗する問題

問題の説明:

BOOT_OPTIONS.COM を使用して rx2800 i2 サーバーあるいは BL860c i2/BL870c i2/BL890c i2 サーバースレードの特定のデバイスに正しくないブート・オプションが追加された場合、ブートに失敗する問題がありました。たとえば、次の例では無効なブート・オプションが追加されています。

- オンボード Ethernet カードに対して追加されたサテライトブート・オプション
- HP 4GB FC および 1 Gigabit Ethernet コンボカードに接続されたデバイスに対するブートオプション

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]EFISBCFG.EXE

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

- [SYSEXEX]ERRFMT.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.23 SYSINIT が報告するエラー状態の修正

問題の説明:

SYSINIT が予想外のエラーに遭遇した場合に、正しくない状態が報告されることがありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEX]SYSINIT.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.24 DECnet が無効な場合に INVEXCEPTN バグチェックでシステム・クラッシュが発生する問題

問題の説明:

MCR NCL DISABLE CSMA STATION <STATION_NAME> コマンドを使用して LAN ポートで DECnet を無効にした場合、DECnet が無効になるだけでなく、対応する LAN ポートがリセットされます。LAN ポートがリセットされるため、同じポートで実行している他のアプリケーションにも影響を与え、システム・クラッシュの原因になります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYS\$EI1000.EXE
- [SYSSLDR]SYS\$EI1000_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001098728

回避方法:

ネットワークで DECnet を無効にするのに次のコマンドを実行します。

```
$ MCR NCL DISABLE ROUTING CIRCUIT <STATION_NAME>  
$ MCR NCL DELETE ROUTING CIRCUIT <STATION_NAME>
```

3.2.25 OpenVMS CRTL の fcntl() バイトレンジ・ロック機能を使用しているアプリケーションが動作しなくなる問題

問題の説明:

プロセスが fcntl() でバイト単位ロックを取得しようとしたときに、他のプロセスが同じ部分をロックしていると、ハングが発生する可能性があります。この際、OpenVMS CRTL の fcntl() を使用しているアプリケーションは応答しません。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DECCSSH.RP.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001108650

回避方法:

なし

3.2.26 SHADDETINCON あるいは INVEXCEPTN バグチェックでシステムがクラッシュする問題

問題の説明:

クラスタ内の異なるメンバ・ノードから複数のメンバがシャドウセットに追加あるいは削除された場合、1 つあるいは複数のシステムでクラッシュが発生すると、1 つあるいは複数のノードで他のノードとは異なるクラッシュ・フットプリントを持つこととなります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYSS\$SHDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.27 CPUSPINWAIT バグチェックでシステムがクラッシュする問題

問題の説明:

クラスタでシャドウセットにメンバを追加した場合、その新しいメンバへのパスを持たないノードは、CPUSPINWAIT バグチェックでシステムクラッシュが発生していました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYSS\$SHDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001065099

回避方法:

シャドウセットに新しいメンバを追加する前に、新しいシステムがクラスタ内のすべてのメンバから認識できるようにしておいてください。

3.2.28 シャドウ書き込みビットマップのリセット時にシステムあるいはクラスタのハングが発生する問題

問題の説明:

シャドウセットに IO を書き込む小さなウィンドウが存在する場合、SHADOW_SERVER プロセスとシャドウセットに書き込みを行おうとしているシステム上のプロセスとの間でデッドロックが発生する場合があります。影響を受けるディスクの構成によっては、システムあるいはクラスタのハングが発生する場合があります。このハングは、ビットマップを時々クリアするシャドウ書き込みビットマップのリセット時に発生します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEX]SHADOW_SERVER.EXE
- [SYSEXEX]SHADOW_SERVER.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001131786

回避方法:

この問題の影響を最小限に抑えるために、シャドウ書き込みビットのリセットしきい値をデフォルト値よりも増やします。

3.2.29 シャドウドライバが冗長なマウント確認メッセージを表示する問題

問題の説明:

SYSGEN パラメータ MPDEV_POLLER が設定されている場合、ストレージファームウェアのアップグレードあるいはスイッチのリセットの後、シャドウセットドライバがコンソールに対してシャドウデバイスごとに冗長なマウント確認メッセージを 1 時間ごとに表示するため、マウント確認の完了には約 0.5 秒かかります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]LOCKING.EXE
- [SYSS\$LDR]LOCKING.STB:
- [SYSS\$LDR]SYSS\$SHDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001128435, QXCM1001139179, QXCM1001144610

回避方法:

なし

3.2.30 INVEXCEPTN バグチェックでシステムがクラッシュする問題

問題の説明:

LAN ドライバによってノンページ・プールから受け取りバッファに対して初期化されていないメモリが割り当てられると、システムクラッシュが発生するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$LAN.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001105653

回避方法:

なし

3.2.31 索引付きリモートファイルを作成した後に FORTRAN プログラムが処理に失敗する問題

問題の説明:

USEROPEN ルーチンを使用してリモート・システムに索引付きファイルを作成する FORTRAN プログラムが、ファイルを正常に作成した後にそのファイルにアクセスするとアクセス違反でフェイルするという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DECSFORRTL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001107379

回避方法:

なし

3.2.32 10 Gb (BCM57711) ポートから他のポートへの LAN フェイルオーバーに 3 秒以上かかる問題

問題の説明:

フェイルオーバー・グループに 10 Gb (BCM57711) LAN ポートが含まれる場合、そのフェイルオーバー・グループ内の別のアクティブ・デバイスに切り替えるための LAN フェイルオーバー処理に 3 秒以上かかります。この問題は、10 Gb (BCM57711) デバイスの動作が原因で発生します。この問題を解決するためにドライバが修正されています。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$EW57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$EW57711_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.33 LAN カード A6825 の Copper モジュールで LAN リンクフラップが発生する問題

問題の説明:

NIC に長い UTP (非シールド・ツイストペア) ケーブルが接続されている場合、A6825A (Copper モジュール) で LAN リンクの混乱が発生します。CRC (巡回冗長検査) およびその他のエラーを伴って、そのデバイスは使用できないという結果が返ってくる場合があります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$EW5700.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$EW5700_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1000905461

回避方法:

なし

3.2.34 BACKUP がバックアップ先にディレクトリ構造を保管しない問題

問題の説明:

BACKUP ユーティリティがバックアップ先でディレクトリ構造を維持しない場合があります。この問題は、コピーあるいは復元操作のパス指定に MFD [000000]を使用している場合に発生します。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001093529

回避方法:

なし

3.2.35 RWMPB 状態でプロセスが動作不能になる問題

問題の説明:

システムが 897 日以上リブートされていない場合 RWMPB 状態でプロセスが動作不能になり、リポートが必要になるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYSS\$VM.EXE
- [SYSSLDR]SYSS\$VM.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001061198

回避方法:

連続稼働時間が 897 日を超える前にシステムをリブートします。

3.2.36 COPY/SYMLINK がターゲット・ファイルをコピーする問題

問題の説明:

COPY/SYMLINK がシンボリック・ファイルをコピーせずにターゲット・ファイルをコピーするという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]COPY.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.37 ラージメモリサイズと RAD が有効な Integrity システムで予約メモリを使用した場合にブートが失敗する問題

問題の説明:

ラージメモリサイズと RAD が有効な Integrity システムで予約メモリが使用されると、ブートが失敗する場合があります。以下のような状況がシステムハングの原因となります。

- ベース RAD から 33 GB , 52 GB , あるいは 62 GB のメモリが予約されている場合。
- EFI メモリマネージャでメモリ構成が MostlyUMA に設定され、システムが 8GB の XFC 予約および 8GB のカスタム予約を持っている場合。メモリ構成が MostlyUMA から BALANCED へ変更され、XFC 予約が 16 GB に増加すると、システムが動作不能になります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]EXEC_INIT.EXE
- [SYSS\$LDR]EXEC_INIT.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001078997, QXCM1001108693, QXCM1001108403

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

回避方法:

メモリサイズを 1024 MB (すなわち 1 GB) の倍数で確保します。たとえば, 90 GB の予約メモリは, SYSMAN から 92160 MB を指定することで予約できます。

注意

すべての状況でこの回避方法が有効なわけではありません。

3.2.38 プロセスのアドレススペースを削除する際に SECREFNEG バグチェックが発生する問題

問題の説明:

特定の状況下で, プロセスが削除されたときに SECREFNEG バグチェックが発生する場合があります。

この際, 次のよう出力してシステムがクラッシュします。

```
Crash dump Summary Information:
Crash Time:      26-APR-2010 11:17:42.00
Bugcheck Type:   SECREFNEG, Section reference count went negative
Node:            <Node Name> (Cluster)
CPU Type:        HP rx8640 (1.60GHz/12.0MB)
VMS Version:     V8.3
Current Process: <Process Name>
Current Image:   <Image Path>
Failing PC:      FFFFFFFF.802B8D00 MMG_STD$SUBSECREFN_C+001F0
Failing PS:      00000000.00000800
Module:          SYSTEM_PRIMITIVES_MIN (Link Date/Time: 22-JUL-2009 10:42:27.06)
Offset:         00158D00
...
Failing Instruction:
MMG_STD$SUBSECREFN_C+001F0:          break.m      100002
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$VM.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$VM.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001037359

回避方法:

なし

3.2.39 COPY/OVERLAY で出力ファイルのサイズが増加する問題

問題の説明:

入力ファイルにレコードが存在しなくても COPY/OVERLAY で出力ファイルのサイズが増加する問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXECOPY].EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001101770

回避方法:

なし

3.2.40 再帰的な DIRECTORY コマンドで "SYSTEM-W-BADFILEVER" エラーメッセージが発生する問題

問題の説明:

プロセスの SYMLINK 属性が WILDCARD あるいは ELLIPSIS に設定されている場合、ODS-2 ディスクで再帰的な DIRECTORY コマンドを実行すると処理が失敗し、"SYSTEM-W-BADFILEVER" エラーメッセージが表示される問題がありました。

たとえば MDA0 が ODS-2 ディスクでプロセスの SYMLINK 属性が WILDCARD に設定されている場合、次のように表示されます。

```
$ DIR MDA0:[000000.TEST...]
Directory MDA0:[000000.TEST]
%DIRECT-E-OPENIN, error opening
MDA0:[000000.TEST.A^.TXT]*.*;* as input
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-BADFILEVER, bad file version number
A.TXT;1

Total of 1 file.
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

なし

回避方法:

なし

3.2.41 BACKUP がシンボリックリンク・ファイルを探さない問題

問題の説明:

BACKUP ユーティリティはディレクトリパスの検索でシンボリックリンクのリンク先をたどりません。つまり、シンボリックリンク・ファイルの保管および復元は行われませんが、リンク先の追跡は行われません。

この問題に対し、ユーザに対して次のような情報メッセージを表示するように BACKUP が修正されています。このメッセージは、リンクファイルが追跡されていないことを示しています。

```
%BACKUP-I-SYMNOTFLW, KU2S4$LDA200:[000000]NEW.LINK;1 is a  
SYMLINK and BACKUP will not follow the link
```

関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE
- [SYSMSG]SYSMGTMSG.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.42 AES 暗号化セーブセットの分析が失敗する問題

問題の説明:

AES (Advanced Encryption Standard) 暗号化セーブセットの分析が失敗し、次のようなエラーメッセージが表示される問題がありました。

```
%BACKUP-F-ENCINIERR, an error was encountered initializing an  
encryption stream  
-ENCRYPT-F-ILLALGSEL, algorithm selection unknown, unavailable,  
or unsupported
```

この問題は修正されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.43 特殊文字のドット (.) を含むディレクトリ・ファイルに対する DIRECTORY コマンドの実行が失敗する問題

問題の説明:

ディレクトリ・ファイル名の最後の文字としてドット (.) を含むディレクトリ・ファイルが作成された場合、そのディレクトリの中身に対する探索が次のようなエラーメッセージで失敗する問題がありました。

```
-RMS-E-DNF, directory not found
```

以下に例を示します。

```
$ SET PROCESS/PARSE_STYLE=EXTENDED
$ CREATE/DIR [.DIR_WITH_DOT_AT_END^.]/LOG
%CREATE-I-CREATED, $10$DKA0:[TEST.DIR_WITH_DOT_AT_END^.] created
$ DIR [.DIR_WITH_DOT_AT_END^.]
%DIRECT-E-OPENIN, error opening
$10$DKA0:[TEST.DIR_WITH_DOT_AT_END^.]*.*;* as input
-RMS-E-DNF, directory not found
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]F11BXQP.EXE
- [SYSSLDR]F11BXQP.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.44 ACCOUNTING /REJECTED コマンドがエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題

問題の説明:

/REJECTED 修飾子を使用して作成したバイナリ・アカウントング・ファイルに対して ACCOUNTING ユーティリティを使用して操作を行うと、"OTS-F-OUTCONERR"エラーメッセージを表示してユーティリティがフェイルする問題があります。

以下に例を示します。

```
$ ACCOUNTING /TYPE=(IMAGE)/REJECTED=ACC.REST  
$ ACCOUNTING ACC.REST  
  
%OTS-F-OUTCONERR, output conversion error
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]ACC.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001084494

回避方法:

なし

3.2.45 SYS\$SNDJBC システムサービスを使用して作成されたアカウントング・レコードを読み取る際に ACCOUNTING ユーティリティが OTS-F-OUTCONERR エラーで処理に失敗する問題

問題の説明:

OpenVMS V8.4 システムでは、長いデバイス名をサポートするように ACCOUNTING レコードにおける端末名の形式が変更されています。しかしながら、\$SNDJBC システムサービスはこの新しい形式をサポートしていませんでした。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]MESSAGE_ROUTINES.EXE
- [SYS\$LDR]MESSAGE_ROUTINES.STB
- [SYS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE
- [SYS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB

- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース: QXCM1001121400

回避方法:
なし

3.2.46 "RMS-F-SYN"エラーで SUBMIT コマンドが失敗する問題

問題の説明:

SUBMIT コマンドの/NAME 修飾子で指定する文字列に特殊文字を含み、ログファイルがルートディレクトリに存在する場合、次のようなエラーを表示して SUBMIT コマンドが失敗するという問題がありました。

```
$ REPLY/ENABLE
$SUBMIT/LOG=xyz.log/NAME="<My_Job" test.com
%%%%%%%%% OPCOM 26-APR-2011 12:53:15.23 %%%%%%%%%%
Message from user AUDIT$SERVER on NODE1
Security alarm (SECURITY) and security audit (SECURITY) on DENB02, system id: 25493
Auditable event: Batch process login failure
Event time: 26-APR-2011 12:53:15.23
PID: 29A0043A
Process name: BATCH_694
Username: SYSTEM
Process owner: [SYSTEM]
Image name: $13$DKA500:[SYS0.SYSCOMMON.][SYSEXE]LOGINOUT.EXE
Posix UID: -2
Posix GID: -2 (%XFFFFFFFFE)
Status: %RMS-F-SYN, file specification syntax error
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001116790, QXCM1001098838

回避方法:
なし

3.2.47 DELETE コマンドが一連のファイルを削除するのに時間がかかる問題

問題の説明:

引数リストに複数ファイルを指定して DELETE コマンドを実行したときに、ファイル名の一部にサーチリストを含むルートデバイス論理名が含まれている場合、そのファイル指定が示すディレクトリあるいはファイルに存在しないものと、処理の完了に非常に長い時間がかかる場合があります。

以下に例を示します。

```
$ DEFINE FOO$SYS $10$DKA0:[FOO.],$10$DKA100:[FOO.]
$ DELETE FOO$SYS:[TEST]1.TXT;* ,FOO$SYS:[TEST]2.TXT;* ,FOO$SYS:[TEST]3.TXT;* , -
$_ FOO$SYS:[TEST]4.TXT;*...
```

この例で、ディレクトリ\$10\$DKA0:[FOO.TEST]あるいは\$10\$DKA100:[FOO.TEST]、またはファイル 1.txt、2.txt、などのうち、いずれかが存在しないとします。この例のファイル指定でファイルが 12 個以上含まれる場合、12 番目以降のファイルで存在しないものと、DELETE コマンドの実行で遅延が発生します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001077044

回避方法:

1 つの DELETE コマンドで多数のファイル进行处理する代わりに、コマンド行で指定するファイル名の数を少なくするように複数の DELETE コマンドに分割します。

3.2.48 ANALYZE/DISK_STRUCTURE コマンドで間違ったファイル名が生成される問題

問題の説明:

ODS-5 ディスクで DCL コマンド ANALYZE/DISK_STRUCTURE を実行すると、ファイルの拡張ヘッダに関する問題についてのメッセージのいくつかで、正しくないファイル名が報告されるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]VERIFY.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1000955871

回避方法:

なし

3.2.49 ディスク数が 744 を超えると MONITOR がデータ収集を中断する問題

問題の説明:

OpenVMS のマニュアルでは最大 909 ディスクまで記録するように記述されていますが、744 を超えるとエラーメッセージを表示して MONITOR がデータ収集を中断するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]MONITOR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001062720, QXCM1001084829

回避方法:

なし

3.2.50 BACKUP /PROGRESS_REPORT で正しくない進捗情報が表示される問題

問題の説明:

BACKUP /PROGRESS_REPORT でイメージバックアップを実行する際、完了状態が正しく計算されず、100%の完了状態が複数回表示されるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

なし

回避方法:

なし

3.2.51 DIRECTORY/GRAND_TOTAL コマンドが報告するファイルサイズの合計値が正しくない問題

問題の説明:

ファイルサイズの合計値が 2 TB を超える場合、DIRECTORY/GRAND_TOTAL コマンドが間違った値を報告するという問題がありました。

```
$ DEFINE TEST DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],-
_$ DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],-
_$ DKA200:[TEST],DKA200:[TEST],DKA200:[TEST]
$ DIR/GRAND_TOTAL/SIZE=UNIT=BYTES DKA200:[TEST]A.DAT

Grand total of 1 directory, 1 file, 20 GB
$

$ DIR/GRAND_TOTAL/SIZE=UNIT=BYTES TEST:A.DAT

Grand total of 1 directory, 13 files, 260GB

$ DIR/GRAND_TOTAL/SIZE=UNIT=BYTES TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,-
_$ TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,TEST:A.DAT,TEST:A.DAT

Grand total of 9 directories, 117 files, 292 GB
```

この例では、最後の DIR/GRAND_TOTAL コマンドは、実際には 2.28 TB である合計値を、間違っ 292 GB と表示しています。

この問題は解決されています。関係するイメージ:

- [SYSEXEC]DIRECTORY.EXE
- [SYSLIB]LIBRTL.DSF
- [SYSLIB]LIBRTL.EXE
- [SYSLIB]LIBRTL.STB
- [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001099251, QXCM1001083236

回避方法:

なし

3.2.52 BACKUP 保管操作が何もエラーメッセージを表示せずに中断する問題

問題の説明:

/PROGRESS_REPORT 修飾子とともに/LOG 修飾子を使用すると、何もエラーメッセージを表示せずに BACKUP が保管処理を中止するという問題がありました。

この問題は解決されています。関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

QuIX この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001068821

回避方法:

なし

3.2.53 BACKUP が増分バックアップの復元操作で存在しないディレクトリを削除しようとする問題

問題の説明:

増分バックアップのリストア操作中に、リストア先ディスクに存在しないディレクトリを BACKUP が削除しようとし、次のようなエラーメッセージを表示するという問題がありました。

```
%BACKUP-E-INCDLERR, error deleting  
$1$DKA100:[BACKUP.TEST]TEST.DIR;1  
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001021831

回避方法:

なし

3.2.54 ACCOUNTING/BRIEF で 81 文字の ACCOUNTING レコードを表示する際に発生する問題

問題の説明:

OpenVMS V8.4 で SOURCE フィールドの長さが 9 文字に増加したため、ACCOUNTING/BRIEF コマンドの出力が 81 文字になる問題がありました (80 文字幅の端末では情報が 2 行で表示されます)。

例:

```
$ ACCOUNTING/BRIEF
```

Date / Time	Type	Subtype	Username	ID	Source	Status
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603591	TNA9999:	0000000
1						
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603592	TNA10000:	0000000
1						
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603593	TNA10001:	0000000
1						

この問題は解決されています。

ただしこの修正により、上記のコマンドの出力は 1 行あたり 80 文字に制限されます。このため、レコードに 9 文字の SOURCE フィールドが含まれる場合、9 番目の文字は出力に含まれません。出力は次のようになります。

```
$ ACCOUNTING/BRIEF
```

Date / Time	Type	Subtype	Username	ID	Source	Status
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603591	TNA9999:	00000001
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603592	TNA10000	00000001
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603593	TNA10001	00000001

ACCOUNTING コマンドで/WIDE 修飾子を使用すると、次の例のように完全な SOURCE フィールドが表示されます (80 文字以上の出力を 1 行で表示できます)。

```
$ ACCOUNTING/BRIEF/WIDE
```

Date / Time	Type	Subtype	Username	ID	Source	Status
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603591	TNA9999:	00000001
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603592	TNA10000:	00000001
3-JUN-2011 16:14:48	PROCESS	INTERACTIVE	TEMP22	20603593	TNA10001:	00000001

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]ACC.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:
なし

3.2.55 RU ジャーナリングが有効になっている RMS ファイルをオープンしようとするとプロセスが動作不能になる問題

問題の説明:

RU (Recovery-Unit) ジャーナリングが有効になっているファイルに対して書き込み操作を行うようなプロセスが (SYSSDELPRC を使用して) 削除された場合、他のプロセスがそのファイルに対してアクセスしようとするとそのプロセスは動作不能になるという問題がありました。さらに 2 番目のプロセスがそのファイルにアクセスしようすると、OPCOM が RMSREC-F-JNLWRITEERR を報告します。この問題は、最初のプロセスを削除するのに STOP/EXIT=KERNEL/ID コマンドを使用した場合にも発生する可能性がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]RECOVER.EXE
- [SYSEXE]RMSREC\$SERVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001121650

回避方法:
なし

3.2.56 SDA が 7FFFFFF を超える LOCKID を表示しない問題

問題の説明:

SDA の SHOW LOCK コマンドは、7FFFFFF を超える LOCKID を表示しないという問題がありました。

例:

```
SDA> SHOW LOCK 22A000  
Lock Database
```


VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題

3.2 このキットで解決される問題

```
Lock id: 0122A000          PID: 0001013C  Flags:
Par. id: 00000000          SUBLCKs: 0|
LKB:      FFFFFFFD.D6413080  BLKAST: 00000000
Priority: 0000
Granted at NL 00000000-FFFFFFF
RSB:      FFFFFFFF.7FEBB980
Resource: 00000000 00006963 ci..... Status: VALBLKR VALBLKW
Length 03 00000000 00000000 .....
User mode 00000000 00000000 .....
Group 00001 00000000 00000000 .....
```

Local copy

```
SDA> SHOW LOCK A2A000
```

Lock Database

```
Lock id: 0122A000          PID: 0001013C  Flags:
Par. id: 00000000          SUBLCKs: 0
LKB:      FFFFFFFD.D6413080  BLKAST: 00000000
Priority: 0000
Granted at NL 00000000-FFFFFFF
RSB:      FFFFFFFF.7FEBB980
Resource: 00000000 00006963 ci..... Status: VALBLKR VALBLKW
Length 03 00000000 00000000 .....
User mode 00000000 00000000 .....
Group 00001 00000000 00000000 .....
```

この例では、ロック ID A2A000 が 7FFFFFFF を超えています。A2A000 の上位ビットがマスクされているため、この例では 22A000 のロック情報が表示されます。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001074108

回避方法:

なし

3.2.57 F\$FILE_ATTRIBUTES レキシカル関数が FALSE を返す問題

問題の説明:

ファイル指定引数にバージョン番号付きでインストール済イメージ名が含まれる場合、F\$FILE_ATTRIBUTES レキシカル関数が FALSE を返します。一度に 1 バージョンのイメージしかインストールできないので、このレキシカルにはファイル・バージョンは指定できません。

例:

```
$ WRITE SYS$OUTPUT F$FILE_ATTRIBUTES("SYS$SYSTEM:DCL.EXE;1", "KNOWN")
FALSE
$
```

レキシカル関数 F\$FILE_ATTRIBUTES が修正され、インストール済イメージ名にバージョン番号が指定されていると、次のように DCL-E-ILLFILEVER メッセージを返します。

```
$ WRITE SYS$OUTPUT F$FILE_ATTRIBUTES("SYS$SYSTEM:DCL.EXE;1", "KNOWN")
%DCL-E-ILLFILEVER, file version numbers not permitted
$
```

関係するイメージ:

- [SYSEXE]DCL.EXE
- [SYSMSG]SYSMSG.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001100895

回避方法:

なし

3.2.58 複数の MTAACP 要求が同時に実行されるとプロセスが動作不能になる問題

問題の説明:

複数の MTAACP 要求が同時に実行されるとそれらの MTAACP 要求が動作不能になり、対応する OPCOM メッセージがコンソールに表示されるという問題がありました。

例として、2つの SAVESET COPY コマンドが2つの telnet セッションから同時に実行された場合を考えます。

telnet セッション A で次のコマンドを入力します。

```
$ SAVESET COPY/IDENTICAL/SYNCH_READ mkb600:2010071512072159.
mkb300:2010071512072159
```

すぐに telnet セッション B に切り替え、次のコマンドを実行します。

```
$ SAVESET COPY/IDENTICAL/SYNCH_READ mka600:2010071512155341.
mkb100:2010071512155341
```

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

telnet セッション C では、次のようなコンソール要求とメッセージが表示されます。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 3-AUG-2010 11:31:07.16 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on NODEA  
VOL004 not on _NODEA$MKB600:  
%%%%%%%%%% OPCOM 3-AUG-2010 11:34:08.03 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on NODEA  
I/O error initializing volume on _NODEA$MKB100:
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]MTAAACP.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001058067

回避方法:

ディスクをマウントする際に/PROCESSOR=UNIQUE 修飾子を使用します。これにより、各デバイスごとに別々の MTAACP プロセスが作成されます。

3.2.59 SHOW ERROR/FULL コマンドが "%SYSTEM-F-VASFULL" エラーメッセージで終了する問題

問題の説明:

SHOW ERROR/FULL コマンドが、%SYSTEM-F-VASFULL, virtual address space is full エラーメッセージを表示して終了するという問題がありました。この問題は、システムに 700 を超えるデバイスが存在する場合に発生します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]SHOW.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001003793, QXCM1001117298

回避方法:

なし

3.2.60 CONVERT/FDL コマンドがエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題

問題の説明:

CONVERT/FDL コマンドで/SECONDARY=n 修飾子を使用して索引付きファイルを変換した場合 (n には 1 より大きな値を指定), ディスクに十分な空きブロックがあっても, 変換処理が失敗するという問題がありました。

```
%CONVERT-F-CREA_ERR, error creating work file <LOGIN_DIRECTORY>:CONVWORK.TMP;1  
-RMS-F-FUL, device full (insufficient space for allocation)
```

以下に例を示します。

```
$ COPY SYS$SYSTEM:SYSUAF.DAT [ ]*/LOG  
%COPY-S-COPIED, SYS$COMMON:[SYSEXE]SYSUAF.DAT;1 copied to  
SYS$SYSDEVICE:[TEST]SYSUAF.DAT;1 (80 blocks)  
$  
$ ANALYZE /RMS/FDL SYSUAF.DAT  
$  
$ CONVERT/FDL=sysuaf.fdl sysuaf.dat sysuaf_new.dat/SECONDARY=2  
%CONVERT-F-CREA_ERR, error creating work file SYS$SYSROOT:[SYSMGR]CONVWORK.TMP;3  
-RMS-F-FUL, device full (insufficient space for allocation)  
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]CONVSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001127682

回避方法:

なし

3.2.61 LIB\$FIND_CVT_PATH ルーチンにおけるアラインメント・フォルト

問題の説明:

LIB\$FIND_CVT_PATH ルーチンを呼び出すアプリケーションの実行中にアラインメント・フォルトが報告されます。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題

3.2 このキットで解決される問題

Exception PC	Rate	Exception PC	Module	Offset
Trace summary output:				
FFFFFFFF.85E4C441	31133.77	LIBRTL+0018A441	LIBRTL	0018A441
		LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00001471 / LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00001471		
FFFFFFFF.85E4C0D0	3534.39	LIBRTL+0018A0D0	LIBRTL	0018A0D0
		LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00001100 / LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00001100		
FFFFFFFF.841A3341	28332.90	LIBRTL+00187341	LIBRTL	00187341
		LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 000011E1 / LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 000011E1		
FFFFFFFF.841A3050	3219.12	LIBRTL+00187050	LIBRTL	00187050
		LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00000EF0 / LIB\$\$FIND_CVT_PATH + 00000EF0		

これらの問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]LIBRTL.EXE
- [SYSLIB]LIBRTL.DSF
- [SYSLIB]LIBRTL.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001124869

回避方法:

なし

3.2.62 TYPE/TAIL=n がエラーメッセージを表示して処理に失敗する問題

問題の説明:

OpenVMS V8.4 システムには、TYPE/TAIL=n コマンド (n には行数を指定) が次のようなエラーメッセージを表示して処理に失敗するという問題があります。

```
-SYSTEM-E-UNSUPPORTED, unsupported operation or function
```

例:

```
$ TYPE/TAIL=10 TMP_SORT_PID_MEM_20200CFE.TXT;  
%TYPE-W-READERR, error reading TEST$DKA0:[TEST.QXCM1001128688]TMP_SORT_PID_MEM_20200CFE.TXT;3  
-SYSTEM-E-UNSUPPORTED, unsupported operation or function  
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]TYPE.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001128688

回避方法:

なし

3.2.63 OpenVMS V8.4 の DELETE コマンドが以前のバージョンよりも CPU 時間を消費する問題

問題の説明:

OpenVMS V8.4 の DELETE コマンドは追加の RTL イメージを起動するため、以前より多くの CPU 時間を消費するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]DELETE.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001118197

回避方法:

なし

3.2.64 未定義のレコード形式のファイルに対して DIFFERENCES が差分を正しく報告しない問題

問題の説明:

"Undefined record format"のレコード形式のファイルに対して DIFFERENCES コマンドを実行すると、違いが無くても差分を報告するという問題がありました。この問題は、2つ目の入力ファイルのファイル指定にノード名が含まれている場合のみ発生します。

例:

```
$ DIFF HELLO.OBJ;1 0.0"user pass"::SYS$SYSDEVICE:[TEMP]HELLO.OBJ;1
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]DIFF.EXE

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001103924

回避方法:

次の例のように、2 つ目のファイルでなく最初のファイルにノード指定を含めます。

```
DIFF 0.0"user pass"::SYS$SYSDEVICE:[TEMP]HELLO.OBJ;1 HELLO.OBJ;1
```

3.2.65 SCH_HARD_OFFFLD または PAGED_LAL_SIZE パラメータが意図せずデフォルト値に設定される問題

問題の説明:

SYSMAN から SCH_SOFT_OFFFLD パラメータにデフォルト値に設定すると、同時に SCH_HARD_OFFFLD パラメータがデフォルト値に設定され、同様に、SCH_HARD_OFFFLD パラメータにデフォルト値を設定すると、同時に PAGED_LAL_SIZE パラメータにデフォルト値が設定されるという問題がありました。

以下に例を示します。

```
$ MC SYSMAN
SYSMAN> PARAM USE CURRENT
SYSMAN> PARAM SHOW SCH_SOFT_OFFFLD

Node USITY: Parameters in use: CURRENT

Parameter Name      Current      Default      Minimum      Maximum Unit  Dynamic
-----
SCH_SOFT_OFFFLD      1-3 (none set)      0      1023 CPU bitmap  D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW SCH_HARD_OFFFLD

Node USITY: Parameters in use: CURRENT

Parameter Name      Current      Default      Minimum      Maximum Unit  Dynamic
-----
SCH_HARD_OFFFLD      1-2 (none set)      0      1023 CPU bitmap  D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW PAGED_LAL_SIZE

Node VIOLET: Parameters in use: CURRENT

Parameter Name      Current      Default      Minimum      Maximum Unit  Dynamic
-----
PAGED_LAL_SIZE      256          0          0      2560 Bytes    D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SET SCH_SOFT_OFFFLD DEFAULT
SYSMAN> PARAM WRITE CURRENT
SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW SCH_SOFT_OFFFLD
```

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

```
Node USITY: Parameters in use: CURRENT
Parameter Name      Current   Default   Minimum   Maximum Unit   Dynamic
-----
SCH_SOFT_OFFFLD    (none set) (none set)    0    1023 CPU bitmap  D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW SCH_HARD_OFFFLD

Node USITY: Parameters in use: CURRENT
Parameter Name      Current   Default   Minimum   Maximum Unit   Dynamic
-----
SCH_HARD_OFFFLD    (none set) (none set)    0    1023 CPU bitmap  D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SET SCH_HARD_OFFFLD default
SYSMAN> PARAM WRITE CURRENT
SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW SCH_HARD_OFFFLD

Node USITY: Parameters in use: CURRENT
Parameter Name      Current   Default   Minimum   Maximum Unit   Dynamic
-----
SCH_HARD_OFFFLD    (none set) (none set)    0    1023 CPU bitmap  D

SYSMAN>
SYSMAN> PARAM SHOW PAGED_LAL_SIZE

Node USITY: Parameters in use: CURRENT
Parameter Name      Current   Default   Minimum   Maximum Unit   Dynamic
-----
PAGED_LAL_SIZE      0         0         0         2560 Bytes    D

SYSMAN>
SYSMAN> EXIT

$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]SYSMAN.EXE
- [SYSEXEC]SMISERVER.EXE
- [SYSLIB]SMI\$OBJSHR.EXE
- [SYSLIB]SMI\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001129074

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

回避方法:

SCH_SOFT_OFFFLD および SCH_HARD_OFFFLD パラメータに SYSGEN からデフォルト値を設定します。

3.2.66 LBR\$OPEN を非ライブラリ・ファイル形式で起動するとチャンネルがオープンしたままになる問題

問題の説明:

LBR\$OPEN を非ライブラリ・ファイル形式で起動すると、%LBR-E-ILLCTL - illegal control index エラーメッセージを表示して処理に失敗するという問題があります。この場合、LBR\$OPEN はチャンネルをオープンしたまま残り、LBR\$OPEN がループで呼び出されるとシステムハングの原因になります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]LBRSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001122623, QXCM1001126264, QXCM1001126255

回避方法:

なし

3.2.67 XFC が 4 MB を超える GH 領域をサポートしない問題

問題の説明:

XFC が 4 MB を超える GH (Granularity Hint) 領域をサポートしないという問題がありました。この問題により、Integrity サーバーで XFC 用に確保された永久メモリで最大 4 GB までの GH 領域をサポートすることが可能にもかかわらず、GH 領域の最大サイズが 4 MB になるという状況が発生していました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE.EXE
- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE_MON.EXE
- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE_MON.STB
- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE

- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001013838

回避方法:

なし

3.2.68 SET PROCESS/AFFINITY コマンドが%CLI-W-CONFLICT 警告メッセージを表示する問題

問題の説明:

SET PROCESS/AFFINITY コマンドで/SET および/CLEAR 修飾子を使用した場合、%CLI-W-CONFLICT警告メッセージが表示されるという問題がありました。この問題は、次の例のように異なる CPU ID が指定された場合も発生していました。

```
$ SET PROCESS/AFFINITY/SET=0/CLEAR=1
%CLI-W-CONFLICT, illegal combination of command elements - check documentation
```

この問題は解決されています。関係するイメージ:

- [SYSEXE]SET.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.69 ターゲット・ディスクが ODS-2 の場合に CREATE/SYMLINK コマンドが何もエラーメッセージを表示しない問題

問題の説明:

ODS-2 ディスクではシンボリックリンクがサポートされていないにもかかわらず、作成しようとする、作成に成功したというメッセージが表示されるという問題がありました。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

例:

```
$ INIT/STRUCTURE= 2 DKA100: test
$ MOUNT/SYSTEM DKA100: test
%MOUNT-I-MOUNTED, TEST mounted on _$5$DKA100: (ITAN)

$ CREATE/SYMLINK="/DKA100/FOO.TXT" LINK2FOO.LNK/LOG
%CREATE-I-CREATED, LINK2FOO.LNK created
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.70 EDIT/TPU コマンドが BADIRECTORY エラーでファイル・オープンに失敗する問題

問題の説明:

この問題は、アプリケーションが RMS \$PARSE を呼び出し、そのあとno-more-files状態を検知するまでループで \$SEARCH を呼び出す場合にも発生していました。このようなエラー状況では、RMS \$SEARCH サービスは、RMS\$_NMF (no-more-files) 戻り値の代わりに RMS\$_FND と \$\$\$_BADDIRECTORY をそれぞれ 1 次メッセージおよび 2 次メッセージとして返します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]F11BXQP.EXE
- [SYSS\$LDR]F11BXQP.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1000855075

回避方法:

EDIT/TPU がオープンに失敗したファイルを DCL コマンドの COPY を使用して同じ場所あるいは別の場所にコピーした後、それをオープンします。

3.2.71 ANALYZE/DISK_STRUCTURE/REPAIR コマンドがエラーメッセージを表示して失敗する問題

問題の説明:

OpenVMS V8.4 システムでは、DCL コマンド ANALYZE/DISK_STRUCTURE/REPAIR がディスク上の多数のシンボリックリンクを修復しながらANALDISK-F-ALLOCMEMエラーメッセージを表示して処理に失敗するという問題がありました。

以下に例を示します。

ディスク DKA0: に OpenVMS V8.3 で作成された 2200 のシンボリックリンク・ファイルが存在すると仮定します。それらのシンボリックリンクのファイル名は ACDC_1.LNK から ACDC_2200.LNK であるとしています。

V8.4 システムでディスクに対して VERIFY コマンドを実行すると、ACDC_1.LNK から ACDC_1286.LNK の 320 個のシンボリックリンク・ファイルは正しく修復しますが、ACDC_1287.LNK という名前の 321 個目のファイルを修復しようとしたときに処理に失敗します。

ファイルはディレクトリ上でアルファベット順にソートされて保管されることに注意してください。このため、ACDC_1.LNK から ACDC_1286.LNK の順にソートされるファイルの数は 320 になります。

```
$ ANALYZE/DISK_STRUCTURE/REPAIR DKA0:
ANALYZE/DISK_STRUCTURE/REPAIR for _DKA0: started on 23-JUN-2011 00:42:34.43
...
%ANALDISK-W-BADSYMENTRY, directory entry for ACDC_1287.LNK in directory (55771,51,0)
TEST does not match symlink attribute in file header
%ANALDISK-F-ALLOCMEM, error allocating virtual memory
-LIB-F-BADBLOSIZ, bad block size
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]VERIFY.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.72 デバッガが複雑なデータ構造体をチェックできない問題

問題の説明:

デバッガが複雑な共用体あるいはデータ構造体をチェックする際にそれらを展開できない問題がありました。この問題の例を以下に示します。

```
$ TYPE TEST.C
#include <stdlib.h>

typedef struct _A{
    int i;
    struct {
        int j;
        int k;
        struct _A *p;
    } ST;
}A;
void main() {
    A a1,a2;

    a1.i = 10;
    a1.ST.j=11;
    a1.ST.k=12;
    a1.ST.p=0;

    a2.i = 210;
    a2.ST.j=211;
    a2.ST.k=212;
    a2.ST.p=&a1;
}
```

While debugging this program, the following result is displayed:

```
DBG> EX A2
TEST\main\a2
  i: 210
  ST
    j: 211
    k: 212
    p: 2060327712
DBG> ex *a2.ST.p
*TEST\main\a2.ST.p
  i: 10
  ST: 51539607563 [cycle found in type definitions]
```

ここでデバッガは、ポインタを逆参照して確認する際に ST を展開しません。同様の動作が共用体に対しても発生します。これは、デバッガの現在の実装の EXAMINE コマンドの制限事項です。

この動作は EXAMINE/EXPAND オプションを使用することで変更できます。EXAMINE/EXPAND は以下のように動作します。

```
DBG> EXAMINE/EXPAND *a2.ST.p
%DEBUG-I-EXAMEXPAND, Use EXAMINE/EXPAND with caution
*TEST\main\a2.ST.p
i: 10
ST
  j: 11
  k: 12
  p: 0
DBG>
```

以下のような、構造体における真のループの場合は、EXAMINE/EXPANDの動作は未定義です。デバッガが無限ループに入る場合はEXAMINE/EXPANDの使用は避けてください。

```
$ type a.cxx
struct B;
struct A {
    B &x;
    A( B &x );
};
struct B {
    A y;
    B();
};

A::A( B &xx ) : x(xx) {}
B::B( ) : y( *this ) {}

B b;
//A a(b);

void main() {
    B b1;
    A a1(b1);
}
```

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DBG\$HA_KERNEL.EXE
- [SYSLIB]DBG\$HA_MAIN.EXE
- [SYSMSG]DBGTBKMSG.EXE
- [SYSLIB]DEBUG.EXE
- [SYSLIB]DEBUGSHR.EXE
- [SYSLIB]DEBUGSRVSHR.EXE
- [SYSLIB]DEBUGISHR.EXE
- [SYSLIB]TRACE.EXE
- [SYSHLP]DBG\$HELP.HLB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001066530

回避方法:
なし

3.2.73 デバッガがレコード内で同じオフセットを持つすべてのコンポーネントを表示する問題

問題の説明:

デバッガが、レコード内で同じオフセットを持つすべてのコンポーネントを表示するという問題がありました。この問題は、AdaCore 社の GNAT ADA コンパイラの最新のパッチバージョンでコンパイルした Ada プログラムで発生します。

以下に例を示します。

```
procedure Record2 is
type T_Rec is
  record
    Int1 : Integer;
    Int2 : Integer;
    Int3 : Integer;
    Int4 : Integer;
  end record;
C : T_Rec := (others => 0);
X : Integer;
begin
  C.Int1 := 5000;
end Record2;
```

この例では、プログラムのデバッグ中に次のような問題が発生します:

```
record type (T_REC, 4 components), size: 16 bytes
contains the following components:
  unallocatedINT1 : longword integer, size: 4 bytes, offset: 0 bytes
  INT2 : longword integer, size: 4 bytes, offset: 0 bytes
  INT3 : longword integer, size: 4 bytes, offset: 0 bytes
  INT4 : longword integer, size: 4 bytes, offset: 0 bytes
structure has been padded, size: 12 bytes, offset: 4 bytes
```

注意

すべてのレコード・コンポーネントのオフセットが 0 バイトです。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DEBUGSHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001106222

回避方法:

なし

3.2.74 SYS\$MKDRIVER と AUDIT サーバー間の同期が取れないために発生するシステムクラッシュ

問題の説明:

実行中のシステムにテープ・ドライブが接続されている場合に、SYSMAN IO AUTO コマンドが実行されると、システムクラッシュが発生する場合があります。この問題は、SYS\$MKDRIVER と AUDIT サーバー間の同期に関する問題が原因で発生していました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$MKDRIVER.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$MKDRIVER.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001060534, QXCM1001084216

回避方法:

なし

3.2.75 IPC トレースバッファ・オーバーフローによる INCONSTATE クラッシュ

問題の説明:

プロセス間通信 (IPC) の追跡メカニズムは IPC MEGA スピンロックを使用して同期化されます。特定のトレースイベントにおいて IPC MEGA スピンロックを持たずにトレースが発生すると、インデックス計算で間違った結果となり IPC トレースバッファがオーバーフローします。このオーバーフローにより INCONSTATE クラッシュが発生するという問題がありました。

この問題は解決されています。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001073961

回避方法:

なし

3.2.76 SYS\$ICC_TRANSCEIVEW システムサービスでアプリケーションが動作しなくなる問題

問題の説明:

アプリケーションが SYS\$ICC_TRANSCEIVEW システムサービスを呼び出すと、アプリケーションがハングするという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001097224

回避方法:

なし

3.2.77 リンク状態がダウンの場合に LAN フェイルオーバが機能しない問題

問題の説明:

10 Gb (BCM57711) LAN ポートがフェイルオーバ・グループに含まれている場合、現在の物理ポートのリンク状態がダウンに変更されると LAN フェイルオーバが機能しないという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$EW57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$EW57711_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001098333, QXCM1001092127

回避方法:

なし

3.2.78 Unicode 文字を含むディレクトリにアクセスできない問題

問題の説明:

ディレクトリ名に Unicode 文字を含むようなディレクトリにアクセスすると、エラーメッセージが表示され処理が失敗するという問題がありました。

以下に例を示します。

```
$ DIR [.^U3042]
%DIRECT-E-OPENIN, error opening SYS$SPECIFIC:[SYSMGR.TMP.TEST.^U3042]*.*;* as input
RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
$
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]RMS.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.79 汎用の USB ドライバ (UG) が AST を未処理のまま残す問題

問題の説明:

関連付けられているチャンネルの割り当ての解除無しにアプリケーションの実行が収束した場合、AST (Asynchronous System Trap) クォータがそのプロセスに割り当てられたままになるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$UGDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001077934

回避方法:

なし

3.2.80 Fibre Channel システムディスクに対して重複するブートパスが表示される問題

問題の説明:

ブートデバイスの LUN が 255(d) よりも大きい場合、間違った数の FC パスが表示されるという問題がありました (すなわちブートパスのエントリが重複します)。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$PGQDRIVER.EXE

この問題が報告されている QuIX ケース:

QXCM1001064459, QXCM1001101468

回避方法:

なし

3.2.81 マルチスレッド・アプリケーションが断続的に動作しなくなる問題

問題の説明:

I/O 操作を実行する際に、アップコールが有効なマルチスレッド・アプリケーションで断続的なハングが発生するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB
- [SYSLIB]PTHREADS\$DBGSHR.EXE
- [SYSLIB]PTHREADS\$RTL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001103965, QXCM1001110712, QXCM1001112125

回避方法:

IMS (Inner Mode Semaphore) アップコールを無効にします。IMS アップコールを無効にするには、SYSGEN パラメータ DISABLE_UPCALLS の値を 768 (10 進) に設定してアプリケーションを再起動します。

```
SYSGEN> SET DISABLE_UPCALLS 768
SYSGEN> WRITE ACTIVE
SYSGEN> WRITE CURRENT
SYSGEN> EXIT
```

注意

リブートは必要なく、システムの性能に顕著な影響はありません。IMS アップコールを無効にしても、すでにハングしているプロセスには作用しません。

3.2.82 EFI プロンプトでブート可能な物理デバイスが表示されない問題

問題の説明:

BL8x0c サーバブレードおよび rx2660 Integrity サーバの EFI から VMS_SHOW DEVICE コマンドを実行してもブート可能な物理ディスクが表示されないという問題がありました。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

論理ユニットのブート可能ディスクについては問題ありません。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]VMS_SHOW.EFI
- [SYSEXEC]VMS_BCFG.EFI
- [SYSEXEC]VMS_SET.EFI

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.83 rx2800 i2 サーバーでコンソールが POLLED モードで動作する問題

問題の説明:

OpenVMS が稼働している rx2800 i2 サーバーのコンソールは、ハードウェア (チップセット) に起因する問題を回避するために INTERRUPT モードでなく POLLED モードで動作していましたが、これが原因で次のような状況が見られました。

1. コンソールで遅滞が発生します。
2. コンソールで大きなデータをコピーすると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
%RMS-F-RER, file read error
      -SYSTEM-W-DATAOVERUN, data overrun
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$PLATFORM_SUPPORT.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSS\$SRDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.84 RTA ターミナルデバイスで制御文字あるいはキーボード割り込みが受け入れられない問題

問題の説明:

RTA ターミナルデバイスでは、このターミナルから分離プロセスが生成された場合、CTRL/Y などのキーボード入力を受け入れられないという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYSS\$CTDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001108566, QXCM1001050322, QXCM1000953283

回避方法:

なし

3.2.85 AUTHORIZE ユーティリティの複数の問題

問題の説明:

AUTHORIZE ユーティリティには以下のような問題がありました。

1. ユーザに対するすべてのログイン・フラグが SYSUAF で指定された場合、その後のそのユーザに対する SHOW コマンドの出力が途中で切り捨てられます。

例:

```
$ UAF MOD XYZ/flags=(AUDIT,AUTOLOGIN,CAPTIVE,DEFCLI,DISCTLY,-
    DISFORCE_PWD_CHANGE,DISIMAGE,DISMAIL,DISNEWMAIL,DISPWDDIC,DISPWDHIS,-
    DISPWDSYNCH,DISRECONNECT,DISREPORT,DISUSER,DISWELCOME,EXTAUTH,GENPWD,-
    LOCKPWD,PWD_EXPIRED,PWD2_EXPIRED,PWDMIX,RESTRICTED,VMSAUTH)

$ UAF SHOW XYZ
Username: XYZ                               Owner:  SYSTEM_MANAGER
Account:  SYSTEM                             UIC:   [10,11] ([XYZ])
CLI:     DCL                                 Tables: DCLTABLES
Default: SYS$COMMON:[MD]
LGICMD:  LOGIN
Flags:   DisCtlY DefCLI LockPwd Restricted DisUser DisWelcome DisNewMail
         DisMail GenPwd Audit DisReport DisReconnect AutoLogin
         DisForce_Pwd_Change Captive DisImage DisPwdDic DisPwdHis ExtAuth
         MigratePwd VMSAuth D    <-- この出力はここで切り捨てられています。
```

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

```
Primary days:  Mon Tue Wed Thu Fri
Secondary days:                               Sat Sun
No access restrictions
Expiration:      (none)      Pwdminimum: 10      Login Fails:    0
Pwdlifetime:    30 00:00     Pwdchange:      (pre-expired)
Last Login:     (none) (interactive),      (none) (non-interactive)
Maxjobs:        0  Fillm:     128  Byt1m:     128000
Maxacctjobs:    0  Shrfillm:    0  Pbyt1m:      0
Maxdetach:      0  B1O1m:     150  J1Tquota:    4096
Prclm:          8  D1O1m:     150  W1Sdef:     4096
Prio:           4  A1T1m:     300  W1Squo:     8192
Queprio:        4  TQElm:     100  W1Sextent:  16384
CPU:            (none) Enqlm:    4000 Pgflquo:    256000
Authorized Privileges:
  ACNT      BYPASS      CMEXEC      CMKRNL      GRPNAM      IMPERSONATE
  LOG_IO    NETMBX      OPER        READALL     SECURITY     SETPRV
  SYSLCK    SYSNAM      SYSPRV      TMPMBX      VOLPRO      WORLD
Default Privileges:
  ACNT      BYPASS      CMEXEC      CMKRNL      GRPNAM      IMPERSONATE
  LOG_IO    NETMBX      OPER        READALL     SECURITY     SETPRV
  SYSLCK    SYSNAM      SYSPRV      TMPMBX      VOLPRO      WORLD
```

2. AUTHORIZE ユーティリティは、ページファイル・クォータ (PGFLQUO) を 2,147,483,632 より小さな値に制限しません。SYSUAF でユーザに対して 2,147,483,632 よりも大きな値が指定された場合、そのユーザのログイン・セッションはハングします。
3. 大きな PGFLQUO が指定された場合、AUTHORIZE ユーティリティは UAF レコードを正しく表示しません。

```
UAF> MODIFY TEST /PGFLQUO=2147483632
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
UAF> SHOW TEST
.
.
CPU:      (none)  Enqlm:    25000  Pgflquo:  *****
.
.
```

これらの問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]AUTHORIZE.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001108425, QXCM1001105197

回避方法:

なし

3.2.86 C ランタイム・ライブラリ関数 LOG10 が HUGE_VAL の値を返す問題

問題の説明:

C ランタイム・ライブラリ関数 LOG10 にゼロに近い入力値が渡された場合に HUGE_VAL の値を返すという問題がありました。標準では、この状況では -HUGE_VAL の値を返す必要があります。この問題は、LOG10 を呼び出すコードが/float=g_float 修飾子を指定してコンパイルされている場合のみ発生していました。デフォルトの浮動小数点形式でコンパイルされている場合は、期待どおりに -HUGE_VAL が返されていました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DPML\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001119014

回避方法:

なし

3.2.87 Emulex FC HBA の不良で I/O 処理時にシステムクラッシュが発生する問題

問題の説明:

Emulex FC HBA (Fibre Channel ホストバスアダプタ) の不良のため I/O 処理中にシステムクラッシュが発生するという問題がありました。この問題は、FC HBA が間違った情報を SYSS\$FGEDRIVER へ渡すために発生します。ドライバがその不整合な情報を処理すると、システムクラッシュが発生していました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$FGEDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001114729

回避方法:

なし

3.2.88 VMS_DUMP_DEV EFI パラメータに無効なエントリが設定されているとシステム・シャットダウンやリブートに時間がかかる問題

問題の説明:

VMS_DUMP_DEV に無効なエントリや存在しないエントリが含まれる場合、多数の PGQBT-W-LINK_WAIT メッセージが表示され、シャットダウンやリブートに時間がかかるという問題がありました。

シャットダウン中、OpenVMS は初期ブート・パスをとおしてエラーログ・バッファをシステムディスクへフラッシュします。パスの問題でシステムディスクが利用できない場合、システムは VMS_DUMP_DEV に記述されている別のパス/デバイスによってフラッシュ操作を試みます。失敗のたびに、ブートドライバは各パスが応答 (ラインアップ) するのを最大 60 秒間待ちます。この処理は 3 回繰り返されます。VMS_DUMP_DEV リストに多数の無効なエントリが存在する場合、かなりの遅延が見られました。

アップデートキットにより、この遅延が低減されます。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$PGQBTDRIVER.EXE
- [SYSEXEC]IPB.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001070615

回避方法:

なし

3.2.89 API 関数 decc\$get_channel() を呼び出す C 言語のアプリケーションやプログラムをコンパイルすると情報メッセージが表示される問題

問題の説明:

DECC\$RTLDEF.TLB ファイルには API 関数 decc\$get_channel() の宣言は含まれていませんでした。このため、コンパイラが次のような情報メッセージを出力するという問題がありました。

```
%CC-I-IMPLICITFUNC, In this statement, the identifier "decc$get_channel" is implicitly declared as a function.
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DECC\$RTLDEF.TLB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.90 32 K を超えるグローバルセクションを作成すると SECTBLFUL エラーメッセージを返す問題

問題の説明:

32 K を超えるグローバルセクション記述子を作成すると、GBLSECTIONS SYSGEN パラメータが高い値に設定されていても、次のようなエラーメッセージが表示されるという問題がありました。

```
-SYSTEM-F-SECTBLFUL, process or global section table is full
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$VM.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$VM.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001121692

回避方法:

なし

3.2.91 LANCP ユーティリティで Broadcom 10 Gigabit デバイスに対して Jumbo フレームを設定できない問題

問題の説明:

LANCP ユーティリティで Broadcom 10 Gigabit デバイスに Jumbo フレームバッファを割り当てるときの失敗するという問題がありました。

以下に例を示します。

```
LANCP> set dev <dev>/JUMBO
```

この問題は修正されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$ER57711_MON.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$EW57711.EXE
- [SYS\$LDR]SYS\$Ew57711_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

SYSGEN パラメータ LAN_FLAGS の設定により、Jumbo フレームバッファをシステム全体で有効にすることができます。

例:

```
SYSGEN> SET LAN_FLAGS 64  
SYSGEN> WRITE CURRENT  
SYSGEN> WRITE ACTIVE
```

3.2.92 クラスタへの参加でブート中にシステムがハングする問題

問題の説明:

ブート時に、クラスタのクォーラムファイルにアクセスできなくなることがまれにあります。このため、次のようなメッセージを表示してシステムがハングするという問題がありました。

```
%VMScluster-I-LOADSECDB, loading the cluster security database  
%SYSINIT-I- waiting to form or join an OpenVMS Cluster  
%MSCPLOAD-I-CONFIGSCAN, enabled automatic disk serving
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]IPB.EXE
- [SYSEXEC]IPB_NOXDELTA.EXE
- [SYSEXEC]SYSBOOT.EXE
- [SYSEXEC]SYSINIT.EXE
- [SYSS\$LDR]EXEC_INIT.STB
- [SYSS\$LDR]EXEC_INIT.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1000909763, QXCM1000985853, QXCM1001131653

回避方法:

なし

3.2.93 10 Gigabit の Broadcom デバイスが含まれていると Jumbo フレームで論理 LAN を作成できない問題

問題の説明:

Broadcom 10 Gigabit デバイスは、他のドライバとは異なる Jumbo フレームバッファ・サイズをサポートします。この不一致のため、Broadcom 10 Gigabit デバイスがフェイルセット・デバイス (物理的なデバイス) の一部である場合、Jumbo フレームでの論理 LAN の作成に失敗するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSS\$LLDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.94 ブート時の PROCgone バグチェックでのシステムクラッシュ

問題の説明:

ブート時に SYS\$ERRLOG.DMP ファイルが無いために、以下のようなメッセージを表示したあとに PROCgone バグチェックでシステムクラッシュが発生するという問題がありました。

```
"%SYSINIT-W- SYS$ERRLOG.DMP not found - system initialization continuing...  
%SYSINIT-W- error log buffers not saved"
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]SYSINIT.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001083437

回避方法:

なし

3.2.95 正しくない負のリテラルの符号拡張

問題の説明:

MACRO コンパイラが 32 ビットの負のリテラルの符号拡張を間違って実行するため、32 ビットの負のリテラルが大きな正の値として扱われるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]MACRO.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.96 OpenVMS CRTL の setitimer() API 関数の間違った動作

問題の説明:

setitimer() API 関数には次のような問題がありました。

- OpenVMS C RTL の setitimer() API 関数は、2 つめの引数で渡される値がすべてゼロの場合、3 つめの引数 (ovalue) で返される値をクリアしません。
- setitimer() API 関数は、it_interval の値が ZERO に設定されている場合、次の期限が来てもタイマーを無効にしません。

これらの問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001115136

回避方法:

なし

3.2.97 C RTL の setenv() API 関数を頻繁に呼び出すとメモリリークを引き起こす問題

問題の説明:

OpenVMS C RTL の setenv() API 関数は、既存の環境変数を再割り当てするのではなくメモリを割り当てるため、setenv() API 関数がメモリリークを引き起こすという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001106354

回避方法:

なし

3.2.98 SORT コマンドが中間警告メッセージの状態を表示しない問題

問題の説明:

特定の状況において、SORT コマンドが正常終了した場合に SORT コマンドの戻り状態が中間警告メッセージの状態を表示しないという問題がありました。
この問題は解決されています。

この問題の修正により、SORT コマンドのデフォルトの戻り状態は、SORT コマンドが正常終了しても警告メッセージの状態を反映します。\$STATUS 変数が、中間警告メッセージに関係なく操作の完了時に SORT の状態を反映しなければならない場合は、システムワイド論理名 SORT_RETURN_FINAL_STATUS を次のように定義する必要があります。

```
$ DEFINE/SYSTEM SORT_RETURN_FINAL_STATUS 1
```

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]SORTMERGE.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001107781

回避方法:

なし

3.2.99 PRINT USING ルーチンが正しい QUAD 値を出力しない問題

問題の説明:

PRINT USING ルーチンを使用した際に QUAD 変数値が正しく表示されないという問題がありましたが、この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]DEC\$BASRTL.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001086149

回避方法:

なし

3.2.100 UETP がメモリの大きなシステムで負荷の計算を間違える問題

問題の説明:

UETP (User Environment Test Package) コマンドプロシージャは、シミュレートするユーザロード数の値としてユーザーからの入力を受け入れます。メモリの大きなシステムでは、シミュレートするユーザロード数のデフォルト値が間違っていて計算されるという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSTEST]UETINIT00.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.101 SATA DVD に関するマウント確認メッセージが重複して表示される問題

問題の説明:

rx2800 i2 サーバーに接続された SATA DVD ドライブに関するマウント確認メッセージが重複して表示されるという問題がありました。この問題は、ブート処理の遅れやインストールに時間がかかる原因となります。また、メディアを焼く際の失敗の原因にもなります。これはドライバの ISR でまれに発生する問題で、中断が認識されずに I/O のタイムアウトの原因となります。

この問題は解決されています。この問題の修正により、性能が改善されます。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYSS\$PKDDRIVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

サーバーにおけるアクティブ・スレッド (CPU) の数を 8 以下に減らします。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

3.2.102 プロセスダンプの作成で警告メッセージが出力される問題

問題の説明:

VMS84I_UPDATE-V0500 キットがインストールされていると、プロセスダンプを作成する際に付加的な警告メッセージが出力されるという問題がありました。なお、この際プロセスダンプは作成されています。

以下に例を示します。

```
$ SET PROCESS/DUMP
$ LIBRARIAN/EXTRACT=$PCBDEF/OUTPUT=nl: SYS$LIBRARY:LIM.MLB
%LIBRAR-F-OPENIN, error opening SYS$COMMON:[SYSLIB]LIM.MLB; as input
-RMS-E-FNF, file not found
%PROCDUMP-W-BADLOGIC, internal logic error detected at PC 00000000.7B5E2DF0
-PROCDUMP-E-NOREAD, no access to location 00000000.7B5061C8, length 00000000.00000008
-PROCDUMP-E-REQUESTED, requested from PC 00000000.7B5E0FC0
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]IMGDMP.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.103 ACME VMS エージェントにおける複数の問題

問題の説明:

ACME VMS エージェントで以下のような問題がありました。

- 次のようなメッセージを出力して ACME_SERVER プロセスがクラッシュし再起動される場合があるので、PointSecure システム検知製品は使用できません。

```
CONSTRAINT_ERROR : acmevacmevrequerprivifromwqerequesprofil.adb:293
range check failed
```

- 全特権付きでインストールされたイメージが SYS\$ACM() システムサービスを呼び出した場合、ACME_SERVER プロセスがクラッシュし再起動されます。
- 30 秒ごとに次のような ACME-LDAP エラーメッセージが表示されます。

```
-LOGIN-F-TEXT, FINISH_PROCESSING_AUDIT ACMEVMS_SECURITY_AUDIT discarded
physical terminal information
```

これは ACME-LDAP サービスの正常な実行には影響を与えませんが、ログファイルのサイズが大きくなります。

これらの問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]VMS\$VMS_ACMESHR.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001038077, QXCM1001080138, QXCM1001065868

回避方法:

なし

3.2.104 ログイン端末名フィールド幅が7文字しかない問題

問題の説明:

対応するクローンデバイス名 (あるいは端末デバイス名) の長さが7バイトを超える場合、ライセンス単位では新しいログイン・セッションは認められないという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]LOGINOUT.EXE (ACMELOGIN,LOGIN)
- [SYSEXEC]SETP0.EXE (ACMELOGIN,LOGIN)

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.105 浮動小数点ソフトウェアアシストを行う際にループになる潜在的な問題

問題の説明:

必要なページをメモリにロードしようとする時、浮動小数点ソフトウェアアシストを処理するコードが予想以上に長いループになる場合がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]EXCEPTION.EXE
- [SYS\$LDR]EXCEPTION.STB
- [SYS\$LDR]EXCEPTION_MON.EXE
- [SYS\$LDR]EXCEPTION_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.106 論理名キャッシュにおける大文字/小文字を区別する論理名の不適切な処理

問題の説明:

大文字/小文字を区別する論理名を論理名キャッシュでキャッシュしたり検索する方法に制限がありました。本アップデートキットにより、この大文字/小文字を区別する論理名の処理に関する問題を解決しています。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYS\$LDR]LOGICAL_NAMES.EXE
- [SYS\$LDR]LOGICAL_NAMES.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001046367, QXCM1001123051

回避方法:

なし

3.2.107 LNM UNLOAD SDA コマンドの実行時にプロセスがクラッシュする問題

問題の説明:

LNM UNLOAD を使用して SDA で論理名トレース処理のアンロードコマンドを実行するとプロセスクラッシュが発生するという問題がありました。このクラッシュは、LNM STOP COLLECT の前に LNM START COLLECT コマンドと LNM UNLOAD コマンドが実行されて LNM トレース・コレクションが開始された場合のみ発生します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]LNM\$SDA.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001094420

回避方法:

なし

3.2.108 KP サービスを使用するスレッドアプリケーションにおける断続的なシステムクラッシュ

問題の説明:

スレッドアプリケーションで KP サービスが使用されている場合、TEB (Thread Environment Block) にアクセスしようとする Thread Pointer(R13) レジスタが壊れて ACCVIO が発生するという問題がありました。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001038522, QXCM1001069944, QXCM1001106858, QXCM1001125907

回避方法:

なし

3.2.109 キャッシュをフラッシュする際に発生する EXE\$PAL_IMB_PHYS における INVEXCEPTN

問題の説明:

ページ保護を設定する際にキャッシュをフラッシュしようすると、EXE\$PAL_IMB_PHYS で INVEXCEPTN が発生するという問題がありました。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

```
Bugcheck Type:  INVEXCEPTN, Exception while above ASTDEL
CPU Type:        HP rx8640 (1.60GHz/12.0MB)
VMS Version:     V8.3-1H1
Current Process: _RTA1:
Current Image:   <not available>
Failing PC:      FFFFFFFF.8011A161   EXE$PAL_IMB_PHYS_C+00151
Failing PS:      00000000.00000809
Module:          SYSTEM_PRIMITIVES_MIN (Link Date/Time: 24-NOV-2010 15:25:51.74)
Offset:         0009A161
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSEXEC]IPB.EXE
- [SYSEXEC]SYSBOOT.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001120757

回避方法:

なし

3.2.110 リポート時にシステム時間の入力の必要性をなくすための修正

問題の説明:

OpenVMS Integrity サーバシステムのブート時にデータセルのいずれかに保管されてる時間が5年以上前の場合、システムプロンプトが表示され正しい日時を入力するように促されます。この際オペレータの操作が必要になるため、ブートあるいはリブート処理が遅れる原因となります。本アップデートキットでは、リポート時にシステム時間を入力するための操作を必要としないように変更されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE
- [SYSS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:

なし

3.2.111 ACME_SERVER プロセスが OPA0: コンソールをロックする問題

問題の説明:

SYSSACM を使った LOGINOUT.EXE では、VMS\$PASSWORD_POLICY が SYSSOUTPUT へ出力するメッセージは OPA0: コンソールヘリダイレクトされます。この結果、ACME_SERVER プロセスがこのコンソールの所有権を占有し、ユーザーはこのコンソールを使えません。つまり、コンソールがハングするという問題がありました。

この問題は解決されています。

今後は、ACME_SERVER プロセスは OPA0: コンソールでなくファイルに対してメッセージを出力します。メッセージは SYSSMANAGER:ACME_SERVER_CONSOLE_OUTPUT.LOG に記録されます。

関係するイメージ:

- [SYSEXE]SETSHOSERVER.EXE
- [SYSEXE]ACME_SERVER.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001062894

回避方法:

なし

3.2.112 監査レコードが DIR/FILE_ID コマンドの結果と異なる問題

問題の説明:

監査レコードのファイル ID 表示が DIR/FILE_ID コマンドと一致しないという問題がありました。

以下に例を示します。

```
$ DIR AB20000.TXT/FILE_ID  
AB20000.TXT;1      (116471,36,0) >> Hexa (1C6F7,24,0)
```

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.2 このキットで解決される問題

しかし、次のように OPCOM/AUDIT レコードは異なるファイル ID を示していました。

```
Auditable event:      Object deletion
Image name:    $10$DKB200:[SYS0.SYSCOMMON.][SYSEXEXE]DELETE.EXE
Object class name: FILE
File name:    _$10$DKA0:[000000]AB20000.TXT;1
File ID:      (50935,36,256) >> (C6F7,24,100)
```

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSLIB]VMS\$FORMAT_AUDIT_SYSTEM.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001100900

回避方法:

なし

3.2.113 BL860c および BL870c サーバブレードの LOM におけるリンク状態の変更に関する問題

問題の説明:

パススルー・インターコネクト・モジュールで動作している場合、BL860c サーバブレードおよび BL870c サーバブレードの LOM デバイスの正しいリンク状態をドライバが判断できない問題がありました。現在は、ドライバは LOM デバイスのリンク状態の変更を正しく認識します。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSSLDR]SYS\$EW5700.EXE
- [SYSSLDR]SYS\$EW5700_MON.EXE

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1000996763, QXCM1000980925, QXCM1001083017

回避方法:

なし

3.2.114 SHOW PROCESS/CONTINUOUS コマンドの動作が正しくない問題

問題の説明:

限られた状況の下で、SHOW PROCESS/CONTINUOUS コマンドが OpenVMS Integrity システムで予測できない動作の原因となる場合があります。

この問題は解決されています。

関係するイメージ:

- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- [SYSS\$LDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB

この問題を報告している QuIX ケース:

QXCM1001078269, QXCM1001080391

回避方法:

なし

3.3 ファームウェア・リリースで解決される問題

3.3.1 EFI ブートオプション Internal Bootable DVD を使用して rx2800 i2 サーバーをブートできない問題

問題の説明:

rx2800 i2 サーバーで、ブートマネージャから Internal Bootable DVD ブート・オプションを使用してシステムをブートしようとするとう失敗するという問題がありました。この際、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Booting Internal Bootable DVD
Boot Failed
Press any key to continue...
```

この問題は、rx2800 i2 サーバー用のファームウェア・バージョン S26.06 で修正されています。

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

VMS84I_UPDATE-V0600 キットにより提供される新機能および解決される問題
3.3 ファームウェア・リリースで解決される問題

回避方法:
なし

3.3.2 rx2800 i2 サーバーの HP Smart Array P812 コントローラに接続されたテープ・ドライブがハングする問題

問題の説明:

rx2800 i2 サーバーの HP Smart Array P812 コントローラにテープ・ドライブが接続されている場合、EFI シェルでシステムがハングするという問題がありました。

この問題は、P812 ファームウェア・バージョン 5.06 で修正されています。

この問題を報告している QuIX ケース:

なし

回避方法:
なし

既知の問題と制限事項

ここでは本アップデートキットの既知の問題と制限事項について説明しています。

- P812 SAS コントローラを使用している場合、実行中のシステムから SAS ケーブルを抜いたり差したりした時に、パス・フェイルオーバーあるいはデバイス検出の処理が行われません。この場合 SAS コントローラは動作不能となり、システムのリブートが必要になります。
- Intel 82575EB および Broadcom 57711E チップセットをベースにした I/O カードでは LAN ブートドライバはサポートされません。InfoServer ブートおよび Cluster サテライトブートは、メモリディスク・ブート方式でのみ実行できます。
- より小さな容量のディスクがディスクグループに追加された場合、MSASUTIL による LUN の移行あるいは拡張は失敗します。この問題は新たに追加されたディスクで空き容量が足りない場合に発生します。

回避方法:

LUN の移行あるいは拡張には、同じ容量あるいはより容量の大きなディスクを使用します。

- MSASUTIL は LUN を 1 TB より大きなサイズに拡大あるいは拡張するのに失敗します。
- RAID 50 あるいは RAID 60 ユニットの LUN の移行および拡張は、MSASUTIL ではサポートされません。
- スペアディスクを持つ RAID 50 ユニットの RAID 60 ユニットの作成した場合、これらのユニット間に未使用のパーティションが作成されます。
- BL860c あるいは BL870c サーバブレードでは、LOM (LAN-on-motherboard) ポートで VC Flex10 モジュール (455880-B21) はサポートされません。
- OpenVMS は、最大 2 TB のサイズのブートデバイスをサポートします。ただし、そのストレージ・デバイスは OpenVMS がサポートするものであり、最新バージョンのファームウェアとともにストレージおよび対応する HBA がインストールされている必要があります。

- RMS \$PARSE サービスでワイルドカードや省略記号が使われている場合、エラーメッセージを表示して処理に失敗します。

RMS \$PARSE サービスで<name1>^.<name2>.DIR の形式でディレクトリ名にワイルドカードや省略記号が使われている場合、次のようなエラーメッセージを表示して処理に失敗します。

```
-RMS-E-DNF, directory not found
```

ここで、エスケープ文字 (^) とそれに続く特殊記号のドット (.) の前後にある <name1> および <name2> はどちらもディレクトリ名の一部です。

この問題は、内部的に SYSSPARSE システムサービスを呼び出す DIR や TYPE などのユーティリティやその他のアプリケーションで見られます。

ディレクトリ名が <name1>^.<name2>.DIR 形式の場合、RMS \$PARSE が処理に失敗するのは、<name2> の部分が 2 つのワイルドカードに囲まれた 1 文字以上で構成されるようなディレクトリファイル指定で呼び出された場合のみです。

<name1> の部分が 2 つのワイルドカードに囲まれた 1 文字以上で構成されるようなディレクトリ・ファイル指定で \$PARSE に渡される場合は、この問題は発生しません。

ディレクトリ名が <name1>^.<name2>^.<name3>.DIR 形式の場合は、<name1> あるいは <name2> ではなく <name3> の部分に 2 つのワイルドカードに囲まれた 1 文字以上が含まれる場合にこの問題が発生します。

以下に例を示します。

この例は、SYS\$SYSDEVICE:[TEST] の下に作成されるディレクトリ名が DIR_TEST^.WITH_DOT.DIR の場合の例です。

この場合、<name1> は DIR_TEST で <name2> は WITH_DOT です。

```
$ SET PROCESS/PARSE_STYLE=EXTENDED
$ CREATE/DIR [.DIR_TEST^.WITH_DOT]/LOG
%CREATE-I-CREATED, SYS$SYSDEVICE:[TEST.DIR_TEST^.WITH_DOT] created
$
```

1. DIRECTORY コマンドを使用した場合の例:

```
$ DIR [.*TEST*...]
%DIRECT-W-NOFILES, no files found
$
$ DIR [.*W*...]
%DIRECT-E-OPENIN, error opening SYS$SYSDEVICE:[TEST.*W*...]*.*;* as input
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
$
```

2. DELETEコマンドを使用した場合の例:

```
$ CREATE [.DIR_TEST^.WITH_DOT]A.TXT
Hello Exit
$
$ DELETE [.*W*...]A.TXT;*
%DELETE-W-SEARCHFAIL, error searching for SYS$SYSDEVICE:[TEST.*W*...]A.TXT;*
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
$
```

3. COPYコマンドを使用した場合の例:

```
$ CREATE/DIR [.TARGET]
$ COPY [.*W*...]A.TXT [.TARGET]
%COPY-E-OPENIN, error opening SYS$SYSDEVICE:[TEST.*W*...]A.TXT; as input
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
$
```

4. TYPEコマンドを使用した場合の例:

```
$ TYPE [.*W*...]A.TXT
%TYPE-W-SEARCHFAIL, error searching for SYS$SYSDEVICE:[TEST.*W*...]A.TXT;
-RMS-E-DNF, directory not found
-SYSTEM-W-NOSUCHFILE, no such file
$
```

- XFC はクラスタ環境ではいくつかのファイルをキャッシュしないため、性能の低下が発生します。

一定の状況下で、XFC はいくつかのファイルのキャッシングを停止し、そのファイルのメモリキャッシュを使用する代わりに、すべての I/O がディスク上のファイルに対して直接実行されます。これらのファイルが使用された場合、期待される性能よりも低下します。

このような動作を起こす例として、次のようなケースがあります。

- 1つのクラスタノードで、あるファイルに対して頻繁に読み取りおよび書き込みを実行し、2つめのノードで同じファイルをオープンし書き込み操作を行った後、ファイルをオープンしたままそれ以上は読み書きを行わないような場合。
- 1つのクラスタノードで、あるファイルに対して頻繁に読み取りおよび書き込みを実行し、2つめのノードでそのファイルをオープンし、ファイルをオープンしたまま時々読み取り操作を行うような場合。

回避方法:

必要に応じて定期的にファイルをクローズした後、オープンし直します。あるいは、あまりアクティブでないノードからそのファイルに対してもっと頻繁に読み取り操作を行います。XFC がロックを変更しファイルのキャッシングを再度開始するには、そのノードからの読み取り I/O を少なくとも 2 回必要とします。

- ディレクトリ <name>.DIR がすでに存在する場合、ディレクトリ <name>^.DIR.DIR を作成できません。

ユーザーディレクトリに <name>.DIR ディレクトリが存在し、同じユーザーディレクトリに別のディレクトリ <name>^.DIR.DIR を作成しようとした場合、次のようなエラーメッセージを表示して処理が失敗します。

```
%CREATE-I-EXISTS
```

この問題は ODS-5 ディスクの場合のみ発生します。

以下に例を示します。

ODS-5 ディスクで次のように実行します。

```
$ SET PROCESS/PARSE_STYLE=EXTENDED
$ CREATE/DIR [.FOO]/LOG
%CREATE-I-CREATED, $10$DKA0:[TEST.FOO] created
```

ここで、次のようにディレクトリを作成しようとしても作成できません。

```
$ CREATE/DIR [.FOO^.DIR]/LOG
%CREATE-I-EXISTS, [.FOO^.DIR] already exists
```

回避方法:

一時的に違う名前でディレクトリを作成し、その後でそのディレクトリを本来のディレクトリ名に変更します。

以下に例を示します。

ODS-5 ディスクで次のように実行します。

```
$ SET PROC/PARSE_STYLE=EXTENDED
$ CREATE/DIR [.FOO]/LOG
%CREATE-I-CREATED, $10$DKA0:[TEST.FOO] created
```

次に一時的なディレクトリを作成します。

```
$ CREATE/DIR [.TEMP]/LOG
%CREATE-I-CREATED, $10$DKA0:[TEST.TEMP] created
```

その後下記のようにディレクトリ名を変更します。

```
$ RENAME $10$DKA0:[TEST]TEMP.DIR $10$DKA0:[TEST]FOO^.DIR.DIR/LOG
%RENAME-I-RENAMED, $10$DKA0:[TEST]TEMP.DIR;1 renamed to $10$DKA0:[TEST]FOO^.DIR.DIR;1
```

- シンボリックリンク・ファイルのセキュリティ・プロファイルを設定あるいは修正するには、DCL の SET SECURITY/SYMLINK コマンドを使用します。SET SECURITY で指定するファイルがシンボリックリンク・ファイルの場合、そのコマンドはシンボリックリンク・ファイル自身に対して機能します。ターゲットファイルのセキュリティ・プロファイルを設定あるいは変更するには、そのターゲットファイルに対して DCL の SET SECURITY/SYMLINK コマンドを使用します。

以下に例を示します。

```

$ CREATE MDA500:[TEST1]A.TXT
HELLO WORLD
Exit
$ DIR MDA500:[TEST1]A.TXT
Directory MDA500:[TEST1]
  A.TXT;1
Total of 1 file.
$
$ CREATE/SYMLINK="/MDA500/TEST1/A.TXT" MDA600:[TEST1]N.LNK
$
$ SHOW SEC MDA600:[TEST1]N.LNK
MDA600:[TEST1]N.LNK;1 object of class FILE
  Owner: [SYSTEM]
  Protection: (System: RWED, Owner: RWED, Group: RE, World)
  Access Control List: <empty>
$
$ SHOW SEC MDA500:[TEST1]A.TXT
MDA500:[TEST1]A.TXT;1 object of class FILE
  Owner: [SYSTEM]
  Protection: (System: RWED, Owner: RWED, Group: RE, World)
  Access Control List: <empty>
$
$ !The following command sets the security profile of the SYMLINK file
$ SET SECU/PROT=(G:R,W:R) MDA600:[TEST1]N.LNK
$ SHOW SEC MDA500:[TEST1]A.TXT
MDA500:[TEST1]A.TXT;1 object of class FILE
  Owner: [SYSTEM]
  Protection: (System: RWED, Owner: RWED, Group: RE, World)
  Access Control List: <empty>
$
$ SHOW SEC MDA600:[TEST1]N.LNK
MDA600:[TEST1]N.LNK;1 object of class FILE
  Owner: [SYSTEM]
  Protection: (System: RWED, Owner: RWED, Group: R, World: R)
  Access Control List: <empty>
$
$ !The following command sets the security profile of the target file
$ SET SECU/PROT=(G:RW,W:R) MDA500:[TEST1]A.TXT;1
MDA500:[TEST1]A.TXT;1 object of class FILE
  Owner: [SYSTEM]
  Protection: (System: RWED, Owner: RWED, Group: RW, World: R)
  Access Control List: <empty>
$

```

- シンボリックリンクを削除したあとに、同じ名前でシンボリックリンクを作成することができません。

シンボリックリンクがディレクトリから削除された後に、そのディレクトリで同じ名前のシンボリックリンクを作成しようとする、その同じプロセスで SYSGEN パラメータの RMS_PATH_TMO に設定された期間内は、-RMS-E-FEX エラーで処理に失敗します。

例:

```
$ SET PROCESS/PARSE_STYLE=EXTENDED/CASE=BLIND
$ CREATE/SYMLINK="/DKA0/TEST/FOO.DAT" Link.lnk
$ DIR [Link^.lnk]      ! この SYMLINK アクセスの間,
                       ! RMS パスキャッシュに追加されます。

$ DELETE Link.lnk;*
$ CREATE/SYMLINK="/ DKA0/TEST/FOO.DAT" Link.lnk
                       ! パスキャッシュで SYMLINK が
                       ! 見つかるため、作成しようとしても
                       ! "-RMS-E-FEX, file already exists, not superseded"
                       ! というメッセージが表示され失敗します。

$ WAIT 00:00:10       ! RMS_PATH_TMO に設定されている値が10 秒だとします。
                       ! 10 秒間待った後、SYMLINKS を作成できるようになります。

$ CREATE/SYMLINK="/ DKA0/TEST/FOO.DAT" Link.lnk
                       ! このコマンドは正しく処理されます。

$
```

RMS パスキャッシュのタイムアウト値の設定方法を以下に示します。

RMS パスキャッシュ・タイムアウト値の設定方法:

RMS パスキャッシュ・タイムアウト値は DCL の SET RMS

/PATH_TIMEOUT=<value> コマンドを使用して、あるいは SYSGEN ダイナミックパラメータ RMS_PATH_TMO を変更することにより変更できます。

SYSGEN パラメータ RMS_PATH_TMO には、次のような特別な値があります:

値	動作
1	キャッシュエントリを全く保持しません。すなわち、タイムアウト値を 0 に設定するのと同じ意味です。
-1	キャッシュエントリを永久に保持します。つまり、タイムアウト値は無限になります。

回避方法:

シンボリックリンクの RMS パスキャッシュを無効にします。無効にするには、次のいずれかのコマンドを実行します。

- プロセスに対するタイムアウト値のみを変更する場合は次のコマンドを使用します。

```
$ SET RMS/PATH_TIMEOUT = 1
```

- システムに対するタイムアウト値を変更する場合は次のコマンドを使用します。

```
$ SET RMS/PATH_TIMEOUT = 1/SYSTEM
```

- あるいは、次のコマンドが使用できます。

```
$ MCR SYSGEN
SYSGEN> SET RMS_PATH_TMO 1
SYSGEN> WRITE CURRENT
SYSGEN> WRITE ACTIVE
SYSGEN>EXIT
```

- ラージメモリ・システムで、いくつかのDCLコマンドあるいはSDAコマンドを実行する間、統計値に関するメモリは実際の値ではなく*****を表示します。

例:

MONITOR PAGEコマンドが、許容されているカラム幅を超える値を表示しようとする場合、ラージメモリ・システムでは次のように*****が表示されます。

```
$ MONITOR PAGE/RECORD=MONITOR_PAGE.DAT/NODISPLAY/END="+00:01:00"
$ MONITOR PAGE /INPUT=MONITOR_PAGE.DAT /SUMMARY
```

```

OpenVMS Monitor Utility
PAGE MANAGEMENT STATISTICS
on node NODE8S
8-SEP-2011 15:55:21.17

Page Fault Rate          CUR          AVE          MIN          MAX
Page Read Rate           0.00         0.01         0.00         0.33
Page Read I/O Rate       0.00         0.00         0.00         0.00
Page Write Rate          0.00         0.00         0.00         0.00
Page Write I/O Rate      0.00         0.00         0.00         0.00
Free List Fault Rate     0.00         0.01         0.00         0.33
Modified List Fault Rate 0.00         0.00         0.00         0.00
Demand Zero Fault Rate   0.00         0.00         0.00         0.00
Global Valid Fault Rate  0.00         0.00         0.00         0.00
Wrt In Progress Fault Rate 0.00         0.00         0.00         0.00
System Fault Rate        0.00         0.00         0.00         0.00
Free List Size           *****.00   *****.40   *****.00   *****.00
Modified List Size       304.00       304.00       304.00       304.00

PLAYBACK                  SUMMARIZING

$
```

- OpenVMS ファイルシステムおよびユーティリティでは、ファイル名の拡張子が.DIR (あるいは.dir) のシンボリックリンク・ファイルはサポートしません。

OpenVMS では、通常ファイルあるいはディレクトリファイルをシンボリックリンクの対象とすることができます。ただし、シンボリックリンク自身の名前には、拡張子として.DIR を含むべきではありません。

以下に例を示します。

1. 拡張子.DIR を含むシンボリックリンク名はサポートされません。

```
$ CREATE NOT_SUPPORTED_SYMLINK.DIR /SYMLINK="TARGET_DIRECTORY/"
```

この例では、このコマンドはTARGET_DIRECTORYという名前のディレクトリを指すNOT_SUPPORTED_SYMLINK.DIRという名前のシンボリックリンクを作成しています。シンボリックリンクNOT_SUPPORTED_SYMLINK.DIRの名前には拡張子.DIRが含まれています。このため、この名前はサポートされません。このようなシンボリックリンクを作成しようとする際に特にメッセージは表示されないため、その後のディレクトリ操作で一貫性の無い結果が生じる可能性があります。

2. bash シェルから作成された SYMLINK の名前に.DIR が含まれる場合。

注意

bash シェルから作成されたシンボリックリンクの名前に.DIR が含まれる場合、DCL で表示すると^.DIR と表示されます。

```
$ DEFINE DECC$POSIX_COMPLIANT_PATHNAMES 1
GNV_bash$ ln -s e.dir LINK.DIR
GNV_bash$ exit
$ DIR LINK^.DIR/LINK
LINK^.DIR.;1 -> e.dir 1
$
```

この例では、LINK.DIRという名前のシンボリックファイルが作成されません。ただし、このファイル名はGNVシェルから作成されています。実際にOpenVMSファイルシステムで作成されるのは、LINK.DIR.;1という名前のディレクトリではないファイルです。このファイルをDCLでリストする際、シンボリックリンクの名前は^.DIRとして表示されます。作成されたシンボリックリンク・ファイルは拡張子.DIRを持たないため、このシンボリックリンクLINK.DIR.;1はサポートされます。

3. ファイル名の拡張子が.DIR でない限り、ファイル名の一部として.DIR を含むシンボリックリンクはサポートされます。

```
$ CREATE LINK^.DIR /SYMLINK="FOO.DAT"
$ DIR/LINK
Directory SYS$SYSDEVICE:[EXAMPLES]
FOO.DAT;1          LINK^.DIR.;1 -> FOO.DAT;1
Total of 2 files.
```

OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキット についての情報

本アップデートキットには VMS84I_LOGINPLUS アップデートキットが統合されています。アップデートキットは、既存の構成をもとに LOGINOUT.EXE および SETP0.EXE の sys\$acm / non-sys\$acm イメージを検出し、自動的に置き換えます。手作業による介入は必要ありません。

VMS84I_UPDATE-V0600 キットは、これまでに OpenVMS Integrity V8.4 に対してリリースされたアップデートキットを含む累積キットになっています。VMS84I_UPDATE-V0600 キットに含まれているキットは以下のとおりです。

- VMS84I_DEBUG-V0100
- VMS84I_FIBRE_SCSI-V0100
- VMS84I_FIBRE_SCSI-V0200
- VMS84I_IPC-V0100
- VMS84I_LAN-V0100
- VMS84I_RMS-V0200
- VMS84I_LOGINPLUS-V0100
- VMS84I_SYSLOA-V0100
- VMS84I_DRIVER-V0100
- VMS84I_UPDATE-V0100
- VMS84I_UPDATE-V0200
- VMS84I_UPDATE-V0300
- VMS84I_UPDATE-V0500

OpenVMS アップデートキットは累積キットなので、本キットの以前のバージョンで提供されたすべての変更が含まれています。これらのキットで解決された問題は、キットと共にインストールされる以下のリリース・ノートで参照できます。

- VMS84I_MUP-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_MUP-V0200.RELEASE_NOTES
- VMS84I_DEBUG-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_DRIVER-V0100.RELEASE_NOTES

OpenVMS Integrity V8.4 用の以前のアップデートキットについての情報

- VMS84I_FIBRE_SCSI-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_FIBRE_SCSI-V0200.RELEASE_NOTES
- VMS84I_IPC-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_LAN-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_LOGINPLUS-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_RMS-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_RMS-V0200.RELEASE_NOTES
- VMS84I_SYS-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_SYSLOA-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_UPDATE-V0100.RELEASE_NOTES
- VMS84I_UPDATE-V0200.RELEASE_NOTES
- VMS84I_UPDATE-V0300.RELEASE_NOTES
- VMS84I_UPDATE-V0500.RELEASE_NOTES

これらをインストール前に参照したい場合は、次のコマンドでキットから取り出すことができます。

- 一度にすべてのリリース・ノートを取り出すには、次のコマンドを使用します。

```
PRODUCT EXTRACT RELEASE_NOTES VMS84I_UPDATE /VERSION=V6.0 -  
[/file=destination_directory]
```

- 特定のリリース・ノートを取り出すには、次のコマンドを使用します。

```
PRODUCT EXTRACT FILE VMS84I_UPDATE /VERSION=V6.0 -  
/SELECT=release_note_name[/DESTINATION=destination_directory]
```

個々の RELEASE_NOTES ファイルの名前は次のコマンドで確認できます。

```
PRODUCT LIST VMS84I_UPDATE /VERSION=V6.0 /SELECT = *.RELEASE_NOTES
```

以前のアップデートキットのドキュメントに対する訂正

ここでは、OpenVMS のドキュメントセットに含まれるマニュアルに対する訂正を記載します。

- VMS84I_UPDATE-V0200 リリース・ノートの第 5.3 節 Hardware support の記述で以下のような訂正があります。

表 5-2 「Hardware supported on the BL8x0c i2 server blades」の次のカラムは無視してください。

Table 5-2 Hardware supported on the BL8x0c i2 server blades

Adapter	Adapter Description	Suggested FW	Suggested EFI	Compatible Servers
Fibre Channel				
456972-B21	8 Gb FC Mezz Emulex	1.11x7	4.00a8	BL8x0c i2 server blades

また、表 5-2 「Hardware supported on the BL8x0c i2 server blades」の下に次の注意事項が必要です。

Note: 8 Gb FC Mezz Emulex (456972-B21) is not supported on OpenVMS.

- VMS84I_UPDATE-V0300 リリース・ノートの 5.1.2 項「Broadcom 57711E support」は次のように記載すべきです。

It is mandatory to install the VMS84I_UPDATE-V0300 update kit to support the Broadcom 57711E based dual-port LAN device (LOM or NC532m mezzanine card).

- VMS84I_RMS-V0200 リリース・ノートの第 5.2 節「Problem Description」に次の注意事項を追加してください。

Note:

Usage of Multi-Block Count (MBC) value greater than 127 is supported only in OpenVMS V8.4 with this patch onwards.

If you intend to use a MBC value of more than 127 blocks to open a file in shared mode in a VMS cluster, you must apply this patch on all nodes in the cluster where these files are shared.

For OpenVMS versions prior to V8.4, MBC value greater than 127 is not supported.

以前のアップデートキットのドキュメントに対する訂正

In mixed version clusters install the following RMS/SYS TIMAs which ensure that attempts to access a file opened on a V8.4 node, from a non-v8.4 node, returns an error without corrupting the file.

- VMS732_RMS-V0600
- VMS82A_RMS-V0400
- VMS821I_RMS-V0500
- VMS83A_RMS-V1200 and VMS83A_SYS-V2000
- VMS83I_RMS-V1000 and VMS83I_SYS-V1700
- VMS831H1I_RMS-V0400 and VMS831H1I_SYS-V1400

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

- [SYSEXEC]ACC.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "ACC"
イメージファイルID: "X-25"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 23-MAY-2011 12:08:23.55
イメージ・チェックサム: 28484EA0

- [SYSEXEC]AGENS\$FEEDBACK.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "AGENS\$FEEDBACK"
イメージファイルID: "X-32"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:46.56
イメージ・チェックサム: 3371A610

- [SYSEXEC]AUDIT_SERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "AUDIT_SERVER"
イメージファイルID: "X-13"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:16:17.11
イメージ・チェックサム: F21A75BC

- [SYSEXEC]BACKUP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "BACKUP"
イメージファイルID: "V8.4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 30-SEP-2010 11:00:46.82
イメージ・チェックサム: EA94BE55

- [SYSLIB]BACKUPSHR.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "BACKUPSHR"
イメージファイルID: "V8.4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 5-MAY-2011 18:00:24.32
イメージ・チェックサム: 3AF272ED

• [SYSEXEC]CDU.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CDU"
イメージファイルID: "I01-11"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:16:17.42
イメージ・チェックサム: 397B73B2

• [SYSMSG]CLIUTLMSG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CLIUTLMSG"
イメージファイルID: "X-3"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:46.21
イメージ・チェックサム: AC6651C3

• [SYSLIB]CONVSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CONVSHR"
イメージファイルID: "X1-012"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:48:56.29
イメージ・チェックサム: 1C0A6E6F

• [SYSLIB]CLUES\$DA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CLUES\$DA"
イメージファイルID: "X-69"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:16:53.92
イメージ・チェックサム: 2433EAD7

• [SYSEXEC]COPY.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "COPY"
イメージファイルID: "X02-01"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:03.31
イメージ・チェックサム: 46E9F9D

• [SYSEXE]DBGHK\$HOST_KERNEL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBGHK\$HOST_KERNEL"
イメージファイルID: "V8.4-000"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:59:12.51
イメージ・チェックサム: E58D00ED

• [SYSEXE]DBGHK\$PRCDUMP_KERNEL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBGHK\$PRCDUMP_KERNEL"
イメージファイルID: "V8.4-000"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:59:15.06
イメージ・チェックサム: 20F2A7EC

• [SYSEXE]DBGHK\$SYSDUMP_KERNEL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBGHK\$SYSDUMP_KERNEL"
イメージファイルID: "V8.4-000"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:59:16.92
イメージ・チェックサム: B549FCE7

• [SYSEXE]DCL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DCL"
イメージファイルID: "X-54"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 24-JUN-2011 13:57:01.98
イメージ・チェックサム: DEEBD9DD

• [SYSMSG]SYSMSG.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSMMSG"
イメージファイルID: "X-9"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:39.02
イメージ・チェックサム: ACCFED0D

• [SYSLIB]DEBUGSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEBUGSHR"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:39.26
イメージ・チェックサム: F52B8527

• [SYSSLDR]FLT\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "FLT\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:25.81
イメージ・チェックサム: F5FA9A1B

• [SYSLIB]DEC\$BASRTL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEC\$BASRTL"
イメージファイルID: "V01-036"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:33:18.80
イメージ・チェックサム: 75945AF4

• [SYSLIB]DEC\$FORRTL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEC\$FORRTL"
イメージファイルID: "V01-07.004"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:33:18.95
イメージ・チェックサム: 2CD9D20A

• [SYSLIB]DECC\$SHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DECC\$SHR"
イメージファイルID: "V8.4-00"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:31:10.95
イメージ・チェックサム: 23C90C04

• [SYSLIB]DECC\$SHRP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DECC\$SHRP"
イメージファイルID: "V8.4-00"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:31:09.83
イメージ・チェックサム: DC2B36B2

• [SYSEX]DIRECTORY.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DIRECTORY"
イメージファイルID: "X02-01"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:40.48
イメージ・チェックサム: 4AE1F8CB

• [SYSLIB]EDTSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "EDTSHR"
イメージファイルID: "1-050"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:15:26.98
イメージ・チェックサム: 28651612

• [SYSEX]EFISBCFG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "EFISBCFG"
イメージファイルID: "X-43"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:17:59.85
イメージ・チェックサム: D895B3D8

• [SYSEX]ERRFMT.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "ERRFMT"
イメージファイルID: "X-22"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:17:48.49
イメージ・チェックサム: 187A3735

- [SYSSLDR]EXCEPTION.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "EXCEPTION"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:19.89
イメージ・チェックサム: 1C36B945

- [SYSSLDR]EXCEPTION_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "EXCEPTION_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:32.90
イメージ・チェックサム: 1C36B945

- [SYSSLDR]EXEC_INIT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "EXEC_INIT"
イメージファイルID: "X-217"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:46.38
イメージ・チェックサム: 84BCDED7

- [SYSSLDR]F11BXQP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "F11BXQP"
イメージファイルID: "XQP V84R_RE CD8"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:44.82
イメージ・チェックサム: C14B3541

- [SYSEXE]F11CACPEXEXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "F11CACP"
イメージファイルID: "X-13"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:16.63
イメージ・チェックサム: 858832A3

• [SYSEXE]F11DACP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "F11DACP"
イメージファイルID: "X-13"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:17.63
イメージ・チェックサム: 12EC70DC

• [SYSLIB]DCE\$LIB_SHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DCE\$LIB_SHR"
イメージファイルID: "DCE V3.2-100509"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 10-MAY-2010 02:54:11.62
イメージ・チェックサム: 1E7AB502

• [SYSSLDR]IMAGE_MANAGEMENT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IMAGE_MANAGEMENT"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:12.68
イメージ・チェックサム: 102AE8D0

• [SYSSLDR]SYS\$PGQDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PGQDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 24-JUN-2011 13:57:35.66
イメージ・チェックサム: A54DB5B5

• [SYSLIB]IMGDMP.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "IMGDMP"
イメージファイルID: "X-72"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:09.05
イメージ・チェックサム: C088596

• [SYSEXE]INDICTMENT_SERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "INDICTMENT_SERVER"
イメージファイルID: "X-9"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:16:16.86
イメージ・チェックサム: 3DA25BA

• [SYSEXE]INSTALL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "INSTALL"
イメージファイルID: "X-34"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 21-AUG-2010 14:16:25.51
イメージ・チェックサム: E5727767

• [SYSLIB]IOGEN\$FIBRE_CONFIG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IOGEN\$FIBRE_CONFIG"
イメージファイルID: "X-39"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 15-SEP-2010 15:49:45.45
イメージ・チェックサム: DDEB4425

• [SYSLIB]IOGEN\$ISA_CONFIG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IOGEN\$ISA_CONFIG"
イメージファイルID: "X-21"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:07:19.51
イメージ・チェックサム: A82BC75

• [SYSLIB]IOGEN\$SCSI_CONFIG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IOGEN\$SCSI_CONFIG"
イメージファイルID: "X-14"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:57:20.56
イメージ・チェックサム: 58D28E83

• [SYSSLDR]IO_ROUTINES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IO_ROUTINES"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:20.05
イメージ・チェックサム: C3DB7896

• [SYSSLDR]IO_ROUTINES_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IO_ROUTINES_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:28.37
イメージ・チェックサム: 20CE81A4

• [SYSEXEXE]IPB.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IPB"
イメージファイルID: "X-4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:43.97
イメージ・チェックサム: B788DDDA

• [SYSEXEXE]LANCP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LANCP"
イメージファイルID: "X-92"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-OCT-2010 16:33:06.62
イメージ・チェックサム: E17E8D49

• [SYSLIB]LBRSHR.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "LBRSHR"
イメージファイルID: "I01-42"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:03:54.62
イメージ・チェックサム: FCC80C2A

• [SYSLIB]LCK\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LCK\$SDA"
イメージファイルID: "X-28"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:37.95
イメージ・チェックサム: E9B49F54

• [SYSLIB]LIBRTL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LIBRTL"
イメージファイルID: "X01-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:46:29.49
イメージ・チェックサム: BF0B22F7

• [SYSSLDR]LOCKING.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LOCKING"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:38.85
イメージ・チェックサム: 7606F20E

• [SYSSLDR]LOGICAL_NAMES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LOGICAL_NAMES"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:08:43.01
イメージ・チェックサム: 727B846C

• [SYSSLDR]MESSAGE_ROUTINES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MESSAGE_ROUTINES"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:08:58.31
イメージ・チェックサム: 97EC7EFE

• [SYSEXE]MACRO.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MACRO"
イメージファイルID: "50-120-5-50F9M"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:12.29
イメージ・チェックサム: 85290640

• [SYSEXE]MSA\$UTIL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MSA\$UTIL"
イメージファイルID: "X-29"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:09:33.66
イメージ・チェックサム: FA109004

• [SYSSLDR]MSCP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MSCP"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:11.87
イメージ・チェックサム: AD2C6C8E

• [SYSLIB]PKM\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PKM\$SDA"
イメージファイルID: "X-29"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 6-JUL-2010 19:03:08.50
イメージ・チェックサム: 7C814B0B

• [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "PROCESS_MANAGEMENT"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:09:05.78
イメージ・チェックサム: E73EB8B4

- [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PROCESS_MANAGEMENT_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:09:16.31
イメージ・チェックサム: 19017B6

- [SYSSLDR]RMS.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "RMS"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 10-JUN-2011 15:42:26.76
イメージ・チェックサム: 299CADD7

- [SYSSLDR]SYSSHUBDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSSHUBDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 5-MAY-2011 18:01:31.50
イメージ・チェックサム: 195A57D

- [SYSLIB]SDA\$SHARE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SDA\$SHARE"
イメージファイルID: "X-2"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 24-JUN-2011 13:57:24.77
イメージ・チェックサム: 6A7E3671

- [SYSSLDR]SECURITY.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SECURITY"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:51.96
イメージ・チェックサム: B8E7C7A0

• [SYSSLDR]SECURITY_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SECURITY_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:54.50
イメージ・チェックサム: 8EDF3190

• [SYSEXEXE]SET.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SET"
イメージファイルID: "X02-00"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:19:11.04
イメージ・チェックサム: 5E203817

• [SYSEXEXE]SETSHOSHADOW.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SETSHOSHADOW"
イメージファイルID: "X-02"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:39.16
イメージ・チェックサム: AF44C07F

• [SYSEXEXE]SHADOW_SERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHADOW_SERVER"
イメージファイルID: "X-28"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:58.79
イメージ・チェックサム: 725C6BD1

• [SYSSLDR]SHELL16K.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHELL16K"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:10.39
イメージ・チェックサム: B1DC91B0

• [SYSSLDR]SHELL32K.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHELL32K"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:13.44
イメージ・チェックサム: 73F34B95

• [SYSSLDR]SHELL64K.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHELL64K"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:15.75
イメージ・チェックサム: E62635F8

• [SYSSLDR]SHELL8K.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHELL8K"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:05.90
イメージ・チェックサム: 5C0A23FF

• [SYSEXEXE]SHOW.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHOW"
イメージファイルID: "X-8"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:19:28.98
イメージ・チェックサム: 20FA83BE

• [SYSEXEXE]SHWCLSTR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SHWCLSTR"
イメージファイルID: "X-27"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:59:12.78
イメージ・チェックサム: 3A7043B9

• [SYSLIB]SMGSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SMGSHR"
イメージファイルID: "SMG\$ X1.0-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:56:20.10
イメージ・チェックサム: 2DD21893

• [SYSEXEXE]SMPUTIL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SMPUTIL"
イメージファイルID: "X-30"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:10:06.48
イメージ・チェックサム: 4ECACE4

• [SYSEXEXE]SORTMERGE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SORTMERGE"
イメージファイルID: "V08-013"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:22.07
イメージ・チェックサム: 25CCC85E

• [SYSSLDR]SYSSCTDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$CTDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:12.31
イメージ・チェックサム: 53813CDB

• [SYSLIB]SORTSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SORTSHR"
イメージファイルID: "V08-013"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:57:19.11
イメージ・チェックサム: 560F33AB

• [SYS\$LDR]SYS\$BASE_IMAGE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$BASE_IMAGE"
イメージファイルID: "IA64 XCD0-J2I"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 24-JUN-2011 13:54:01.09
イメージ・チェックサム: D69A04B4

• [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$CLUSTER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:05.01
イメージ・チェックサム: 66CA2B53

• [SYS\$LDR]SYS\$CLUSTER_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$CLUSTER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:24.22
イメージ・チェックサム: 234332F7

• [SYS\$LDR]SYS\$CMDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$CMDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:55.59
イメージ・チェックサム: C96897F

• [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$DKDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:14.05
イメージ・チェックサム: E78E73E3

• [SYS\$LDR]SYS\$DNDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$DNDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:36.29
イメージ・チェックサム: 644C8CD6

• [SYS\$LDR]SYS\$EI1000.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EI1000DRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 23-MAY-2011 12:08:36.08
イメージ・チェックサム: 8171AD55

• [SYS\$LDR]SYS\$DZCDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$DZCDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:46.35
イメージ・チェックサム: ECE337BB

• [SYS\$LDR]SYS\$EIGBTDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EIGBTDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 15-SEP-2010 15:50:51.03
イメージ・チェックサム: B66A8957

• [SYS\$LDR]SYS\$GHDRIVER.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$GHDRIVER"
イメージファイルID: "DW V8.4-100903"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:59:16.70
イメージ・チェックサム: 9D71158B

• [SYS\$LDR]SYS\$HWP0001.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$HWP0001"
イメージファイルID: "X-35"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:10:27.37
イメージ・チェックサム: 3083FF7

• [SYS\$LDR]SYS\$HWP0004.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$HWP0004"
イメージファイルID: "X-35"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:10:30.81
イメージ・チェックサム: BEFFC254

• [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$IPC_SERVICES"
イメージファイルID: "V1.3-X03E-XCD8"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:45.47
イメージ・チェックサム: E771736A

• [SYS\$LDR]SYS\$LASTDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$LASTDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 6-JUL-2010 19:02:07.00
イメージ・チェックサム: EE4DD88B

• [SYS\$LDR]SYS\$PCIE_SUPPORT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PCIE_SUPPORT"
イメージファイルID: "X-35"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:10:53.70
イメージ・チェックサム: BFFB6434

• [SYS\$LDR]SYS\$PCI_SUPPORT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PCI_SUPPORT"
イメージファイルID: "X-35"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:10:20.78
イメージ・チェックサム: DF096D31

• [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PEDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:38.63
イメージ・チェックサム: 7FDB1932

• [SYS\$LDR]SYS\$PEDRIVER_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PEDRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:48.04
イメージ・チェックサム: A1FCBA0E

• [SYS\$LDR]SYS\$PGQBTDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PGQBTDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:48.71
イメージ・チェックサム: A295000C

• [SYS\$LDR]SYS\$PKMDRIVER.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PKMDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:32.10
イメージ・チェックサム: E3F97B77

• [SYS\$LDR]SYS\$PKRDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PKRDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:28.04
イメージ・チェックサム: FC17D8E2

• [SYS\$LDR]SYS\$PKWDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PKWDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 15-SEP-2010 15:51:10.63
イメージ・チェックサム: D54F31DE

• [SYS\$LDR]SYS\$PLATFORM_SUPPORT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$PLATFORM_SUPPORT"
イメージファイルID: "X-35"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:17:48.80
イメージ・チェックサム: 4C36B79A

• [SYS\$LIB]SYS\$SETBOOTSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$SETBOOTSHR"
イメージファイルID: "SB V6.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:57:19.00
イメージ・チェックサム: 53D38BCD

• [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$SHDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:09.82
イメージ・チェックサム: 1E291A07

• [SYS\$LDR]SYS\$UGDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$UGDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 23-MAY-2011 12:09:08.68
イメージ・チェックサム: A71A64C6

• [SYS\$LDR]SYS\$SRDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$SRDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:12.96
イメージ・チェックサム: 51BE4C5

• [SYS\$LDR]SYS\$TRANSACTION_SERVICES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$TRANSACTION_SERVICES"
イメージファイルID: "V2.1-X035-XCAU"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 30-SEP-2010 11:00:42.87
イメージ・チェックサム: E27F8FDA

• [SYS\$LDR]SYS\$VM.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$VM"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:04.98
イメージ・チェックサム: 75138888

• [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$XFCACHE"
イメージファイルID: "V1.0"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:12.01
イメージ・チェックサム: D551A831

- [SYS\$LDR]SYS\$XFCACHE_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$XFCACHE_MON"
イメージファイルID: "V1.0"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:13.80
イメージ・チェックサム: 718A5C48

- [SYSEX]SYSBOOT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSBOOT"
イメージファイルID: "X-154"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:05.02
イメージ・チェックサム: AD982FD8

- [SYSEX]SYSGEN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSGEN"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 17:41:02.20
イメージ・チェックサム: F8361FE8

- [SYS\$LDR]SYSGETSYI.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSGETSYI"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:29.79
イメージ・チェックサム: 73E9C6B1

- [SYSEX]SYSINIT.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSINIT"
イメージファイルID: "X-128"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:00.32
イメージ・チェックサム: 2527AE0E

• [SYSSLDR]SYSLDR_DYN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSLDR_DYN"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:31.51
イメージ・チェックサム: 7DCF2B47

• [SYSMMSG]SYSMGTMSG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSMGTMSG"
イメージファイルID: "X-4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 7-APR-2011 16:30:10.88
イメージ・チェックサム: CA34AE4E

• [SYSSLDR]SYSTEM_DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:51.90
イメージ・チェックサム: 2CB6F89A

• [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_PRIMITIVES"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:08:38.76
イメージ・チェックサム: C6DB5732

• [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.EXE

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_PRIMITIVES_MIN"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:08:53.36
イメージ・チェックサム: 20CDC6DE

- [SYSSLDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_SYNCHRONIZATION"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:52.40
イメージ・チェックサム: 161C2D6A

- [SYSSLDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:50.40
イメージ・チェックサム: D14A8BAA

- [SYSSLDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000001"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:53.59
イメージ・チェックサム: D6B3BD38

- [SYSLIB]USBSSDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "USBSSDA"
イメージファイルID: "X-34"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:27.10
イメージ・チェックサム: BDAC4346

- [SYSLIB]VMS\$FORMAT_AUDIT_SYSTEM.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "VMS\$FORMAT_AUDIT_SYSTEM"
イメージファイルID: "X-19"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:08.44
イメージ・チェックサム: 2F17FA11

• [SYSLIB]VMS\$VMS_ACMESHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "VMS\$VMS_ACMESHR"
イメージファイルID: "V1.0"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-38"
リンク日時: 13-APR-2011 22:20:34.93
イメージ・チェックサム: CE956F72

• [SYSEXE]VMSHELP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "VMSHELP"
イメージファイルID: "X-4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:20.35
イメージ・チェックサム: E616A288

• [SYSLIB]I64_CLUE\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "I64_CLUE\$SDA"
イメージファイルID: "X-69"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:46:54.95
イメージ・チェックサム: 8972E72D

• [SYSEXE]I64_DBGHK\$HOST_KERNEL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "I64_DBGHK\$HOST_KERNEL"
イメージファイルID: "V8.4-000"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:59:13.42
イメージ・チェックサム: D4EC58D6

• [SYSLIB]IOGEN\$AVIO_CONFIG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IOGEN\$AVIO_CONFIG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:57:20.35
イメージ・チェックサム: 983985BC

• [SYSEXE]IPB_NOXDELTA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "IPB_NOXDELTA"
イメージファイルID: "X-4"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:45.29
イメージ・チェックサム: 1A8A0AFD

• [SYSSLDR]LNM\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LNM\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:01.15
イメージ・チェックサム: 5978A650

• [SYSLIB]LNM\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LNM\$SDA"
イメージファイルID: "X-13"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 23-MAY-2011 12:08:52.91
イメージ・チェックサム: 677D3AF6

• [SYSSLDR]PRF\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PRF\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:14.50
イメージ・チェックサム: B95D9D6F

• [SYSLIB]PRF\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PRF\$SDA"
イメージファイルID: "X-27"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:12:03.64
イメージ・チェックサム: 5A37FC1

• [SYSLIB]SPL\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SPL\$SDA"
イメージファイルID: "X-43"
イメージファイル・ビルドID: "0100000000"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 14-MAY-2010 23:11:24.22
イメージ・チェックサム: 1E5B7D4B

• [SYS\$LDR]SYS\$EW57711.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW57711DRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:07.52
イメージ・チェックサム: DA5F9B26

• [SYS\$LDR]SYS\$EW57711_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW57711DRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:08.02
イメージ・チェックサム: 739E1099

• [SYS\$LDR]SYS\$ER57711.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW57711DRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:07.52
イメージ・チェックサム: DA5F9B26

• [SYS\$LDR]SYS\$ER57711_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW57711DRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:08.02
イメージ・チェックサム: 739E1099

• [SYS\$LDR]SYS\$GSPBTDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$GSPBTDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 12-AUG-2010 14:58:27.30
イメージ・チェックサム: 8D292EB3

• [SYS\$LDR]SYS\$GSPDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$GSPDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000002"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-SEP-2010 12:47:50.38
イメージ・チェックサム: 8819DE61

• [SYS\$LDR]SYS\$LAN_CSMACD.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$LAN_CSMACD"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 7-SEP-2010 16:28:09.83
イメージ・チェックサム: F6E16CBA

• [SYSEXE]ACME_SERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "ACME_SERVER"
イメージファイルID: "X-42"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:03.58
イメージ・チェックサム: 65AB664B

• [SYSEXE]SETSHOSERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SETSHOSERVER"
イメージファイルID: "X-2"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:35:25.04
イメージ・チェックサム: FCB8703F

• [SYSLIB]LDAP\$SHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LDAP\$SHR"
イメージファイルID: "LDAP V2.0-05000"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 22-SEP-2010 17:49:36.81
イメージ・チェックサム: A9793D82

• [SYSLIB]LDAPACME\$LDAP-STD_ACMESHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LDAPACME\$LDAP-STD_ACMESHR"
イメージファイルID: "LDAP-STD V01.05"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:17:12.06
イメージ・チェックサム: B23C2FC5

• [SYSSLDR]SYS\$EIDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EIDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 7-SEP-2010 16:28:07.44
イメージ・チェックサム: 3EE9231A

• [SYSEXE]LANACP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LANACP"
イメージファイルID: "X-29"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-OCT-2010 16:33:09.46
イメージ・チェックサム: 981E18DE

• [SYSSLDR]SYS\$EW5700.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW5700DRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:00.01
イメージ・チェックサム: 5F828251

• [SYS\$LDR]SYS\$EWXFRAME.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EWXFRAMEDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-OCT-2010 16:33:17.81
イメージ・チェックサム: 23C180CD

• [SYSLIB]LIBOTS.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LIBOTS"
イメージファイルID: "V1.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 17:52:53.62
イメージ・チェックサム: 6CBFA382

• [SYSEXE]LMF.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "LMF"
イメージファイルID: "X-26"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:11.29
イメージ・チェックサム: 405DCFD

• [SYS\$LDR]NET\$CSMACD.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CSMACD - NETWORK MANAGEMENT"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:12.34
イメージ・チェックサム: AEBE3327

• [SYSLIB]SMI\$OBJSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SMI\$OBJSHR"
イメージファイルID: "X40-A9"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:41.28
イメージ・チェックサム: D889DCB5

• [SYSSLDR]SWIS\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SWIS\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:29.86
イメージ・チェックサム: E4C99ED7

• [SYSLIB]SWIS\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SWIS\$SDA"
イメージファイルID: "X-6"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:31.90
イメージ・チェックサム: 524C27CD

• [SYSSLDR]SYSS\$FGEDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSS\$FGEDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:22.48
イメージ・チェックサム: 43731648

• [SYSLIB]DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEBUG"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:07.10
イメージ・チェックサム: 243C847E

• [SYSLIB]TR\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "TR\$SDA"
イメージファイルID: "X-18"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:28.48
イメージ・チェックサム: 581D8D55

• [SYSLIB]FLT\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "FLT\$SDA"
イメージファイルID: "X-8"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:26.42
イメージ・チェックサム: 56EAC3D7

• [SYSEXE]MONITOR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MONITOR"
イメージファイルID: "X-26"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:23.93
イメージ・チェックサム: AD6E966A

• [SYSEXE]SYSMAN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSMAN"
イメージファイルID: "X01-22"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:44.40
イメージ・チェックサム: B1C5F015

• [SYSLIB]SMI\$SHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SMI\$SHR"
イメージファイルID: "X01-04"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:37.75
イメージ・チェックサム: 2689105E

• [SYSEXE]SMISERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SMISERVER"
イメージファイルID: "X01-15"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:46.89
イメージ・チェックサム: 5EFEDD90

• [SYSSLDR]SYS\$EHCIDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EHCIDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:18:08.54
イメージ・チェックサム: BB806079

• [SYSSLDR]SYS\$OHCIDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$OHCIDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:18:02.22
イメージ・チェックサム: 51D6991A

• [SYSSLDR]SYS\$UHCIDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$UHCIDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:19.30
イメージ・チェックサム: 20467B2F

• [SYSLIB]ICC\$SDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "ICC\$SDA"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:17:47.51
イメージ・チェックサム: 945326A5

• [SYSSLDR]SYS\$GLDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$GLDRIVERDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:18:47.42
イメージ・チェックサム: E58D5824

• [SYS\$LDR]SYS\$GLDRIVER_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$GLDRIVERDRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:18:50.51
イメージ・チェックサム: DC02EB42

• [SYSEXEC]SEARCH.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SEARCH"
イメージファイルID: "X02-09"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 20-OCT-2010 18:17:55.08
イメージ・チェックサム: B6C7EED9

• [SYS\$LIB]PE\$SSDA.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PE\$SSDA"
イメージファイルID: "X-23"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 17:41:40.77
イメージ・チェックサム: AF74A4AB

• [SYS\$LDR]SYS\$IKUDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$IKUDRIVER"
イメージファイルID: "DW V8.4-101104"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 18:16:07.43
イメージ・チェックサム: 3D49C68C

• [SYS\$LDR]SYS\$IMUDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$IMUDRIVER"
イメージファイルID: "DW V8.4-101104"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 18:16:13.84
イメージ・チェックサム: 9FF28778

• [SYS\$LDR]SYS\$IKXDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$IMUDRIVER"
イメージファイルID: "DW V8.4-101104"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 18:15:47.02
イメージ・チェックサム: 8C69C757

• [SYS\$LDR]SYS\$MKDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$MKDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:07.12
イメージ・チェックサム: 178ABECA

• [SYS\$EXE]QMAN\$QUEUE_MANAGER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "QMAN\$QUEUE_MANAGER"
イメージファイルID: "X-3"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 17:41:09.01
イメージ・チェックサム: DDA8CCED

• [SYS\$LDR]SYS\$DADDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$DADDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 4-NOV-2010 17:41:29.03
イメージ・チェックサム: 9A2553B8

• [SYS\$LIB]PTHREAD\$RTL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PTHREAD\$RTL"
イメージファイルID: "V3.22-095"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:16:47.68
イメージ・チェックサム: FCE15062

• [SYSLIB]PTHREAD\$DBGSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "PTHREAD\$DBGSHR"
イメージファイルID: "V3.22-095"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:16:48.07
イメージ・チェックサム: 7F892FAD

• [SYSHLP.UNSUPPORTED]CDDVD\$COPY.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CDDVD\$COPY"
イメージファイルID: "CDDVD V1.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 28-NOV-2010 19:09:39.02
イメージ・チェックサム: 7C0C5E6

• [SYSHLP.UNSUPPORTED]CDDVD\$COMPARE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CDDVD\$COMPARE"
イメージファイルID: "CDDVD V1.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 28-NOV-2010 19:09:59.35
イメージ・チェックサム: 1CCCCAC3

• [SYSMSG]CDDVD\$MESSG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CDDVD\$MESSG"
イメージファイルID: "CDDVD V1.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 28-NOV-2010 17:24:33.20
イメージ・チェックサム: 33F0FBC8

• [SYSEXEC]CDDVD\$CP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CDDVD\$CP"
イメージファイルID: "CDDVD V1.0-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 28-NOV-2010 19:10:22.25
イメージ・チェックサム: D101AA6C

• [SYSLIB]SDARMS\$SHARE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SDARMS\$SHARE"
イメージファイルID: "X-7"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:23.59
イメージ・チェックサム: 386DE222

• [SYSLIB]DBG\$HA_KERNEL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBG\$HA_KERNEL"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:31.81
イメージ・チェックサム: F15DFC01

• [SYSLIB]DBG\$HA_MAIN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBG\$HA_MAIN"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:27.88
イメージ・チェックサム: 26E710E6

• [SYSMSG]DBGTBKMSG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DBGTBKMSG"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:16.10
イメージ・チェックサム: 18D626C7

• [SYSLIB]DEBUGSRVSHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEBUGSRVSHR"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:01.54
イメージ・チェックサム: E8516CBD

• [SYSLIB]DEBUGISHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DEBUGISHR"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:19:16.02
イメージ・チェックサム: A088619A

• [SYSLIB]TRACE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "TRACE"
イメージファイルID: "V8.4-001"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-MAR-2011 12:16:03.43
イメージ・チェックサム: C71D9CD2

• [SYSSLDR]SYSSEWXFRAME_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSSEWXFRAMEDRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-OCT-2010 16:33:18.20
イメージ・チェックサム: B64AAFCD

• [SYSSLDR]SYSSEIDRIVER_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSSEIDRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 7-SEP-2010 16:28:07.87
イメージ・チェックサム: 86A65966

• [SYSSLDR]SYSSEW5700_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EW5700DRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:01.25
イメージ・チェックサム: DFF14EE9

• [SYS\$LDR]TR\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "TR\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000003"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 11-OCT-2010 15:18:28.03
イメージ・チェックサム: 52C5C475

• [SYS\$LDR]SYS\$LAN.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$LAN"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:42.86
イメージ・チェックサム: C7EEB01

• [SYSEX]VERIFY.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "VERIFY"
イメージファイルID: "X-28"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:02.44
イメージ・チェックサム: 351D0CC5

• [SYSTEST]UETINIT00.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "UETINIT00"
イメージファイルID: "X-48"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:24.84
イメージ・チェックサム: 87C4672D

• [SYSEX]RECOVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "RECOVER"
イメージファイルID: "X01-03"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:22.15
イメージ・チェックサム: 39332EE

• [SYSEXE]RMSREC\$SERVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "RMSREC\$SERVER"
イメージファイルID: "X-13"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:24.38
イメージ・チェックサム: F221F272

• [SYSSLDR]ERRORLOG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "ERRORLOG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 3-JUN-2011 13:34:03.30
イメージ・チェックサム: 4696DD8F

• [SYSSLDR]SYSSEI1000_MON.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$EI1000DRIVER_MON"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 23-MAY-2011 12:08:36.44
イメージ・チェックサム: 8179D7D6

• [SYSEXE]AUTHORIZE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "AUTHORIZE"
イメージファイルID: "X-31"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:18:12.67
イメージ・チェックサム: EC0031F

• [SYSEXE]DELETE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DELETE"
イメージファイルID: "X-05"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:40.37
イメージ・チェックサム: 101CEC7D

• [SYSEXE]DIFF.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DIFF"
イメージファイルID: "X-12"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:40.22
イメージ・チェックサム: 2D361DA1

• [SYSEXE]MAIL.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MAIL"
イメージファイルID: "V1.06"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:53.38
イメージ・チェックサム: 7A9C36D0

• [SYSEXE]MTAAACP.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "MTAAACP"
イメージファイルID: "X-12"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:49:58.55
イメージ・チェックサム: 97B1EE3E

• [SYSSLDR]SYS\$LLDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYS\$LLDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:08.84
イメージ・チェックサム: 2F9ACFD8

• [SYSEXE]TYPE.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "TYPE"
イメージファイルID: "X-28"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 19-JUL-2011 16:50:54.13
イメージ・チェックサム: 33BD59CC

• [SYSLIB]DPML\$SHR.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "DPML\$SHR"
イメージファイルID: "T01-018"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 1-JUL-2011 15:15:22.89
イメージ・チェックサム: B2865D89

• [SYSSLDR]CNX\$DEBUG.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "CNX\$DEBUG"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 8-AUG-2011 13:07:47.78
イメージ・チェックサム: 7323B449

• [SYSSLDR]SYSSPKDDRIVER.EXE

イメージ識別情報：

イメージ名: "SYSSPKDDRIVER"
イメージファイルID: "X-5"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 9-SEP-2011 13:36:15.09
イメージ・チェックサム: B514E52C

• [SYSEXE]LOGINOUT.EXE - ACMELOGIN

イメージ識別情報：

イメージ名: "LOGINOUT"
イメージファイルID: "LOGIN98 X-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 17-MAY-2011 12:22:40.97
イメージ・チェックサム: B3107B9C

• [SYSEXE]SETP0.EXE - ACMELOGIN

イメージ識別情報：

イメージ名: "SETP0"
イメージファイルID: "LOGIN98 X-1"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 17-MAY-2011 12:24:10.26
イメージ・チェックサム: FE72F890

• [SYSEXE]LOGINOUT.EXE - LOGIN

イメージ識別情報：

イメージ名: "LOGINOUT"
イメージファイルID: "X-54"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 17-MAY-2011 12:22:41.68
イメージ・チェックサム: 6E9560D2

• [SYSEXE]SETP0.EXE - LOGIN

イメージ識別情報:

イメージ名: "SETP0"
イメージファイルID: "X-3K2"
イメージファイル・ビルドID: "0100000004"
リンカーID: "Linker I02-37"
リンク日時: 17-MAY-2011 12:24:10.47
イメージ・チェックサム: 531E9801

- [SYSSLDR]SYSSPKDDRIVER.STB
- [SYSSLDR]CNX\$DEBUG.STB
- [SYSSLDR]MESSAGE_ROUTINES.STB
- [SYSSLDR]SYSSLDRIVER.STB
- [SYSSMSG]SYSSMSG.STB
- [SYSUPD]ACCOUNTIN.HLP
- [SYSSLDR]SYSSUGDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSSLAN.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$EI1000.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$EW5700_MON.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$EIDRIVER_MON.STB
- [SYSUPD]AUTOGEN.COM
- [SYSUPD]AUTOGEN_LM.COM
- [SYSLIB]BACKUP.CLD
- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG.COM

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

- [SYSMGR]CLUSTER_CONFIG_LAN.COM
- [SYSSLDR]COPY.CLD
- [SYSSLDR]EXCEPTION.STB
- [SYSSLDR]EXCEPTION_MON.STB
- [SYSSLDR]EXEC_INIT.STB
- [SYSSLDR]F11BXQP.STB
- [SYSSLDR]IMAGE_MANAGEMENT.STB
- [SYSSLDR]IO_ROUTINES.STB
- [SYSLIB]IO_ROUTINES_MON.STB
- [SYSLIB]LIB.MLB
- [SYSLIB]LIBRTL.DSF
- [SYSLIB]LIBRTL.STB
- [SYSSLDR]LOCKING.STB
- [SYSSLDR]LOGICAL_NAMES.STB
- [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT.STB
- [SYSSLDR]PROCESS_MANAGEMENT_MON.STB
- [SYSSLDR]SECURITY.STB
- [SYSSLDR]SECURITY_MON.STB
- [SYSEXE]SHELL8K.STB
- [SYSLIB]SHUTDOWN.COM
- [SYSSLDR]STARLET.MLB
- [SYSSLDR]SYSS\$CLUSTER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$CLUSTER_MON.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$LIB_C.TLB
- [SYSSLDR]SYSS\$PEDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$PEDRIVER_MON.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$STARLET_C.TLB
- [SYSSLDR]SYSS\$VM.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$XFCACHE_MON.STB
- [SYSSLDR]SYSGETSYI.STB
- [SYSSLDR]SYSLDR_DYN.STB
- [SYSSLDR]SYSTEM_PRIMITIVES.STB

- [SYS\$LDR]SYSTEM_PRIMITIVES_MIN.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_MIN.STB
- [SYSLIB]SYSTEM_SYNCHRONIZATION_UNI.STB
- [SYS\$STARTUP]VMS\$CONFIG-050_SHADOW_SERVER.COM
- [SYSEXEC]VMS\$DEVICE_STARTUP.COM
- [SYSUPD]VMSINSTAL.COM
- [SYSEXEC]VMS_BCFG.EFI
- [SYSEXEC]VMS_SET.EFI
- [SYSEXEC]VMS_SHOW.EFI
- [SYSHLP]MSGHLP\$LIBRARY.MSGHLP\$DATA
- [SYSLIB]BASIC\$STARLET.TLB
- [SYSEXEC]I64VMS\$PCSI_INSTALL_MIN.COM
- [SYSEXEC]INS_STARTUP.COM
- [SYS\$LDR]LNM\$DEBUG.STB
- [SYS\$LDR]MSCP.STB
- [SYS\$LDR]PRF\$DEBUG.STB
- [SYS\$LDR]RMS.STB
- [SYS\$LDR]SHELL16K.STB
- [SYS\$LDR]SHELL32K.STB
- [SYS\$LDR]SHELL64K.STB
- [SYSLIB]STARLET.R64
- [SYSLIB]STARLET.REQ
- [SYSLIB]STARLETPAS.TLB
- [SYSLIB]STARLETS.D.TLB
- [SYS\$LDR]SYS\$CMDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$DKDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$DNDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$GHDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$GSPDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$IPC_SERVICES.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$LASTDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKMDRIVER.STB

本アップデートキットの適用により修正されるファイル一覧

- [SYS\$LDR]SYS\$PKRDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$PKWDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$SRDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYSTEM_DEBUG.STB
- [SYSHLP]UAFHELP.HLB
- [SYSMSG]VMSINSTAL_LANGUAGE.COM
- [SYSEXEC]VMS_LOADER.EFI
- [SYS\$LDR]SYS\$LAN_CSMACD.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$EIDRIVER.STB
- [SYSHLP.EXAMPLES]LDAP_EXAMPLE.C
- [SYSHLP]ACMELDAP_STD_CONFIG_INSTALL.PDF
- [SYSHLP]ACMELDAP_STD_CONFIG_INSTALL.TXT
- [SYSHLP]ACME_DEV_README.TXT
- [SYS\$STARTUP]LDAPACME\$CONFIG-STD.INI_TEMPLATE
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT_3DES.C
- [SYS\$LDR]SYS\$EW5700.STB
- [SYSHLP.EXAMPLES.ENCRYPT]ENCRYPT\$EXAMPLES.TXT
- [SYS\$LDR]SYS\$FGEDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]NET\$CSMACD.STB
- [SYSEXEC]TCPIP4.EFI
- [SYSEXEC]FTP.EFI
- [SYSEXEC]IFCONFIG.EFI
- [SYSEXEC]PING.EFI
- [SYSEXEC]ROUTE.EFI
- [SYS\$LDR]TR\$DEBUG.STB
- [SYS\$LDR]SWIS\$DEBUG.STB
- [SYSLIB]DECC\$RTLDEF.TLB (updated by DECC\$RTLDEF.FOR_RELEASE)
- [SYS\$LDR]SYS\$EHCIDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$UHCIDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$SHDRIVER.STB
- [SYS\$LDR]FLT\$DEBUG.STB
- [SYS\$LDR]SYS\$OHCIDRIVER.STB
- [SYSHLP]MAILHELP.HLB

- [SYSEXE]SHADOW_SERVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$IKUDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$IMUDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$IKXDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$MKDRIVER.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$DADDRIVER.STB
- [SYSHLP]MSA_UTIL_HELP.HLB
- [SYSUPD]ANALYZE.hlp
- [SYSUPD]BACKUP.hlp
- [SYSUPD]CRTL.hlp
- [SYSUPD]DCLDICT.hlp
- [SYSUPD]LIBRARY.hlp
- [SYSUPD]SYSTEM.hlp
- [SYSUPD]UTIL_ROUTINES.hlp
- [SYSHLP]LANCPS\$HELP.HLB
- [SYSSLDR]RMSDEF.STB
- [SYSHLP]DBG\$HELP.HLB
- [SYSSLDR]SYSS\$HUBDRIVER.STB
- [SYSTEMGR]BOOT_OPTIONS.COM
- [SYSEXE]I64VMS\$PCSI_INSTALL.COM
- [SYSSLDR]SYSS\$CTDRIVER.STB
- [SYSSLDR]ERRORLOG.STB
- [SYSHLP]SYSMANHELP.HLB
- [SYSSLDR]SYSS\$EI1000_MON.STB
- [SYSSLDR]LIBOTS.STB
- [SYSSLDR]SMGSHR.STB
- [SYSSLDR]SYSS\$PGQDRIVER.STB
- [SYSHLP]SDA.HLB